科目名	図学	年次	1	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	壺井 勘也				
クラス名					

授業目的と到達目標

図学を通して知るデザインの楽しさとおもしろさを具体的に理解し、世界各地に存在する建築構造物はもとよりビジュアルに表現されたデザイン商品からプロダクトデザイン・インダストリアルデザインに応用された製品やファッション界における楽しいグッズに至るまでのデザイン力をつける

授業概要

対面授業で行う。
前期（具現化された形態を基に図学の基本を習得する）
後期（具体的に表現方法を理解し作図による演習をする）
造形作家、公共事業、モニュメントを制作するにあたり、完成予想図を作成する技術を習得する。
高校美術・工芸教諭としての基礎知識、作図、画法の習得が必須。以上今日までの職務経験において必要とされる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

特に後期からの授業においては配布された資料をもとに事前に予習し、理解を深める。講義された内容を反復する。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容

1	古代エジプトに始まる幾何学の理解と学習。	
2	古代ギリシャにおける数学を応用した幾何学の説明。	
3	古代ローマにおける遺跡に見られる建造物から始まる形態の学習。	
4	江戸期における日本の実測図学の歴史を研究。	
5	日本における幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。	
6	ヨーロッパにおける幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。	
7	生活・文化の中に息づく図学について考察。	
8	生活・文化の中に息づく図学について考察。	
9	生活・文化の中に息づく図学について考察。	
10	生活・文化の中に息づく図学について考察。	
11	インテリアデザインに活用された図学の基本。	
12	ビジュアルデザインに活用された図学の基本。	
13	インダストリアルデザインに活用された図学の基本。	
14	コンストラクション・コンポジションの理解。	
15	一点透視図法の技法を習得。	
16	一点透視図法の技法を習得。	
17	一点透視図法の技法を習得。	
18	二点透視図法の技法を習得。	
19	二点透視図法の技法を習得。	
20	二点透視図法の技法を習得。	
21	アイソメ投影法の研究。	
22	アイソメ投影法の研究。	
23	アクソメ投影法の研究。	
24	アクソメ投影法の研究。	
25	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。	
26	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。	
27	建築構造物を実際に表現する力を身につける。	
28	建築構造物を実際に表現する力を身につける。	
29	建築構造物を実際に表現する力を身につける。	
30	自動車のパースを自由課題として提出。	

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	小谷　訓子				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業は、本学建学の精神を表す五角形の理念全てに関わる「基礎的な芸術力」を養う教科として、西洋美術史の基礎的な知識を身につけてもらうことを目的とする。西洋古代からの芸術作品を歴史の流れの中で学ぶことは、学生が時代に即しながら「自己」や「自己流」そして自分の作品を創造する時に、重要な刺激やインスピレーションを与える。授業のコンテンツが「過去」の「西洋」の「芸術作品」であることから、五角形の中でも特にCREATIVITY と GLOBAL の側面に深く関わっているところの「基礎的な芸術力」を育成することがこの授業の目標である。

授業概要

この授業では、主に絵画、彫刻、建築を取り上げ、西洋世界における美術の歴史を学んでいく。その手続きとして先ずは、各芸術作品の「線」「色彩」「光」「構成（構図）」「形態」「空間」「媒体」を分析し、その作品が所属する時代と地域における様式的特色を認識する。その上で、作品に映し出された社会の状況、政治的なメッセージ、イデオロギー、慣習、作家の意図やパトロンの意図などを歴史的に把握していく。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

毎週、授業に関する指示や詳細を UNIPA でチェックすること。
授業資料のスライド・リストと教科書を参考に、毎回の講義内容をノートに書きとめて、復習をしっかりすること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期末試験	45
後期末試験	45
授業の取り組み・伸び率・その他	10

教科書

教科書1	『西洋美術史』		
出版社名	美術出版社	著者名	秋山聰・田中正之監修
教科書2	『いちばん親切な西洋美術史』		
出版社名	新星出版社	著者名	池上英洋他著
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
授業内容や、進行のペースを変更する場合があります。

教員実務経験
最終学歴がアメリカの大学院の Ph.D.なので、アメリカでの研究生活が長く、留学中にプリンストン大学付属美術館においてルネサンス期の素描作品の展覧会を2回ほど部分担当したこともある。その他イタリアやフランスなどヨーロッパにも研究調査だけでなく留学経験もあるので、グローバル・スタンダードを意識した授業を展開する。但し、この授業に関しては西洋美術史の概説なので、それほど専門的なことには触れず、芸術作品を分析する際に必要な基本的なポイントを講義する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	イントロダクション：西洋美術史という学問について
2	古代ギリシャ美術
3	古代ローマ美術
4	古代美術の総まとめ
5	初期キリスト教美術とビザンチン美術
6	ロマネスク美術
7	ゴシック美術
8	中世美術の総まとめ
9	初期ルネサンス美術
10	イタリア・ルネサンス美術①
11	イタリア・ルネサンス美術②
12	北方ルネサンス美術
13	ヴェネツィア・ルネサンス美術
14	ルネサンス美術の総まとめ
15	古代美術・中世美術・ルネサンス美術の総括と前期末試験
16	マニエリスム美術
17	バロック美術①
18	バロック美術②
19	ロココ美術
20	ルネサンス・バロックから近代世界へ
21	新古典主義美術
22	ロマン主義美術
23	19 世紀美術①
24	19 世紀美術②
25	印象主義絵画
26	ポスト印象主義絵画
27	20 世紀美術①
28	20 世紀美術②
29	モダン・アート総まとめ
30	16 世紀～20 世紀美術の総括と後期末試験

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標

建学の精神の国際的視野に立って、西洋美術作品の鑑賞を通じ、西洋美術の見方・考え方を学ぶと共に、ヨーロッパ社会の美術や文化との豊かな関わりを理解し、美術を愛する心と豊かな感性を育む。明治以降、日本が手本としたヨーロッパにおける美術の流れを大まかに理解して、近代から現代に連なる日本美術の理解を助け、ひいては現代を生きるための知識と感性を養う。

授業概要

【対面授業】古代ギリシア・ローマ文明から説き起こし、完成された一つの文明としての古代ヨーロッパ世界を理解する。ついで、キリスト教が中心となる中世の社会や美術を理解する。その後、古代と中世の交わる文明としての 15 世紀の初期ルネサンスにまで到達する。
作品に込められたメッセージや政治性・社会性をも理解し、美術作品を「読む」作業を繰り返し行う。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

高校レベルの世界史の基礎知識を持っていることが望ましい。世界史を選択しなかった場合でも、『もういちど読む山川世界史』などである程度の知識を得てから出席してほしい。また、授業中に出てきた作品については図書館で調べてより深い理解へと向かう努力をしてほしい。
美術史も知識の積み重ねが物を言う。したがって、授業で解説したことは、その日のうちにしっかりと復習して、次の回に備えてほしい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
学年末試験（2/3 の出席が受験の前提）	100

教科書

教科書1	カラー版 西洋美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	高階秀爾監修
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	西洋絵画の主題物語 Ⅰ聖書編 Ⅱ神話編（絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい）		
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修
参考書名2	新装版 西洋美術解読事典（絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい）		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名3	小学館世界美術大全集		
出版社名	小学館	著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション「美術作品をいかに『読む』か」 まず、科目の名前を「西洋」「美術」「歴史」に分けてそれぞれの意味を説明し、本講義で何を扱うのかを解説する。ついで、ティツィアーノとマネの作品を取り上げながら、そこに込められたメッセージの解読を行なう。
2	様式から古典様式までのギリシア美術 1「クレタ美術とミュケーナイ美術」 ギリシア半島における文化の発展に先立つ時代を取り上げる。その中で、古代地中海世界の超先進国であったエジプトからギリシア世界がいかに多くのことを学んだかを理解する。
3	様式から古典様式までのギリシア美術 2「陶器画の発展」 幾何学模様の時代からコリントスを中心とする動物文の陶器、そしてアテナイで制作されたアッティカ様式の壺絵の展開を概説する。その中で、ギリシア美術、すなわち、ヨーロッパ美術の中核をなす人間への関心のあり方を理解する。
4	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 3「エトルリア美術とギリシア古典期の建築」 ギリシア文明とほぼ同時代にイタリア半島で栄えたエトルリア美術について理解する。また、ギリシア美術の最盛期と考えられる古典期の建築様式について理解する。その際、ヨーロッパ建築様式の基礎をなすイオニア、ドーリア、コリントスなどのオーダーについて学ぶ。
5	厳格様式から古典様式までのギリシア美術4「彫刻の発展」 クリティオス作《少年像》に端を発し、厳格様式、古典様式へと展開するギリシア彫刻の流れを理解し、その中核にある「コントラポスト」の概念について学ぶ。
6	「白い文明」DVDNHK で放送された番組を鑑賞し、「ヨーロッパ文明の揺り籠としてのギリシア文明」という概念がいかにして作られていったか、そしてギリシア文明が純粋な「白い文明」として捏造されたかを理解する。
7	「ヘレニスム美術」 アレクサンダー大王の死以降の時代を扱う。ヘラ（国としてのギリシアのギリシア語名）の文化が地中海の大きな領域へと拡大していくヘレニスム（ヘラ風）文化の特質と、我々が知るギリシア彫刻の多くがこの時代に属することを理解する。その中で宗教と密接に結びついていた美術が変質する様を学ぶ。
8	ローマ美術 1「アウグストゥスの時代まで」 共和制から王政に至るローマの歴史と文化を理解する。現代社会の基礎が古代ローマにあることを理解する。「パリスの審判」から「ローマの建国」に至る所謂ローマ建国神話について学ぶ。
9	ローマ美術 2「アウグストゥスの時代以降」 初代皇帝となるアウグストゥスの時代から五賢帝時代を経て、ローマの滅亡へと至る時代と美術の流れを理解する。そこに見える歴史主義・記録主義という、ギリシア文明と異なるローマ文明の特質を理解する。
10	ローマ美術 3「ポンペイの遺跡」 紀元 79 年に起こったヴェスヴィオス山の噴火によって埋没した古代都市ポンペイの悲劇と現在の研究状況について学ぶ。395 年に東西に分裂したローマ帝国の西半分（西ローマ帝国）が 476 年に滅亡するまでの末期の歴史と文化を学ぶ。
11	「ローマ帝国」DVDNHK で放映された番組を鑑賞し、ローマの繁栄と滅亡の原因を探る。現在進行中の我々の現代文明の行き先をも占う古代ローマ帝国の状況を学ぶことで、我々が今後どのように生きるべきかを考える。
12	「キリスト教における救済のメカニズム1」

	姉妹宗教と言われるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関連を考え、その中で何故キリスト教は生まれなくてはならなかったのか、すなわち、神はキリストを通じてどのように人々を救済しようとしたのかを理解する。その中で「ゴルゴタ」や「受肉」の意味も解説される。
13	「キリスト教における救済のメカニズム2」 キリスト教の教義が説く救済のメカニズムが、美術作品の中にどのように現れているかを、作品を見ながら理解する。
14	「初期キリスト教美術1」 古代世界と重なるキリスト教誕生期の歴史を学び、その中で自らの信仰を隠すために人々がいかに隠語的な図像を生み出していったかを理解する。
15	「初期キリスト教美術2」 キリスト教が弾圧されていた時代に殉教した人々が、教義によってどのように聖人の列に加えられたか（列聖）を理解し、聖人伝や聖人の典型的図像が生み出されていく様を学ぶ。
16	「教会の勝利の時代」 コンスタンティヌス帝によりキリスト教が許され、ついで国教になると、キリスト教の教義確立が目指された歴史を学ぶ。その中で、図像がどのように変化していくかを理解する。
17	「ビザンティン美術」 西ローマ帝国で社会・文化が大きく変化していった時代に、東ローマ帝国ではどのような動きがあったのか、政治と宗教はどのような関係にあったのかを理解する。また、その後移ってきたトルコ人によりイスラム教が信仰され、その中でキリスト教の教会が変容していくことを理解する。
18	「初期中世美術1」 ゲルマン民族の移動とそれに続くフランク王国の成立によって現代のヨーロッパの基礎が築かれたことを理解する。写本装飾に関連して、写本、印刷、修道院などの歴史について学ぶ。
19	「初期中世美術2」 写本装飾の作品を鑑賞し、修道院や貴族の邸宅における写本制作について学ぶ。日本人の繊細な装飾感覚に近い、ケルト人の装飾について理解を深める。
20	「ロマネスク様式1」 聖遺物崇敬やロマネスク建築の構造について理解する。聖ヤコブの遺体の発見が引き起こした全ヨーロッパ的な巡礼の動きと、それに基づく聖堂の構造変化について理解する。
21	「ロマネスク様式2」 栄光のキリスト図像について学び、それが意味する修道院を中心としたこの時代の宗教活動を理解する。
22	「ゴシック様式1」 文化の担い手の社会層が一段下がることによって、宗教美術のあり方が変わること、それが修道院長シュジェールの下にサン・ドニで起こることを理解する。「聖母マリア」を重視する教義が現れることも学ぶ。
23	「ゴシック様式2」 各地に大聖堂が数多く建設され、その装飾の中でステンドグラスが生まれることを理解する。
24	「国際ゴシック様式1」 14 世紀　社会的混乱と封建制の動揺、すなわち、教皇のアヴィニョン幽囚、教会の大分裂（シスマ）、黒死病の流行、百年戦争などについて学び、その中で貴族を担い手とする優美な美術が生まれることを理解する。
25	「国際ゴシック様式2」 同じ時代にイタリアでジョットが絵画に革新を起こし、それによって遠近法の基礎が築かれたことを理解する。また、その変革が社会的な変質によって引き起こされたものであることを学ぶ。
26	「国際ゴシック様式3」 ジョットと同時代のシモーネ・マルティーニの作品や、ジョットに先立つニコラ・ピサーノの彫刻作品について学ぶ。
27	「ルネサンス概説1」 ルネサンスの概念とそれを生み出した 15 世紀前半のフィレンツェの美術を理解する。特に建築におけるブルネレスキ、彫刻におけるドナテッロ、絵画におけるマザッチョの役割を学ぶ。

28	「ルネサンス概説2」 マザッチョに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ絵画について学ぶ。
29	「ルネサンス概説3」 ドナテッロに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ彫刻について学ぶ。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験。

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤　隆明				
クラス名	工芸学科				

授業目的と到達目標

現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。
表現者は社会とともにあり社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験まで表現者の制作意欲は揺さぶられる。
その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。

授業概要

課題テーマは基本 3 作品制作。1作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど制作思考継続が必要である。
また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。
作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

工芸史美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接にある。そのため身の回りにある社会的関心ごとは注意し調べておく必要がある。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
課題 3 つの提出。	課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
造形活動の経験を生かし、イメージの生成方法、具体化、作品展示などの制作手順を指導する。コンセプトワークも説明し修得できるようにする。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	課題1　感覚の交換音楽を造形にする。 自身が詩（ことば）がない音楽を選択する。 選択した音楽を○△□の抽象的形態と色彩を使用し、レリーフ作品を制作する。 平面から立体に変化する作品が特徴。 最初配布した素材を使用し、仮のレリーフ形態を制作しイメージデッサンを制作する。
2	課題1 イメージデッサンの確認ができたら素材に着彩をする。 絵具は水彩が適切だと考えるがが自身が選んだものを使用してもよい。
3	課題1 着彩の作業とともに、レリーフ化するため部位の接着を行う。 接着には木工ボンドが適切かと思いますが自身で選んでもよい。
4	課題1 作業を続ける。 レリーフの特性を考え正面からだけでなく上下左右からも作品を確認する。
5	課題1 対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。 採点終了学生から次の課題に進む。
6	課題２　パーソナリティーの作品化 自身の人格、人柄、人間性など客観的に分析し多様な素材で表現する。
7	課題２ 自身の分析とイメージデッサンを制作をする。
8	課題２ 各自で素材や技法を選択し考察する。
9	課題２ 制作を持続させる。
10	対話的な方法で作品を鑑賞し言語化に努める。 採点を行う。
11	課題３　場の特性を観察し考察し造形を制作する。 （サイトスペシフィックアート、インスタレーションの概念の理解）
12	制作に関して素材、色彩等は自身で判断する。 制作された作品は、場所に設置し記録写真を複数枚撮影する。
13	制作に関して素材、色彩等は自身で判断する。 制作された作品は、場所に設置し記録写真を複数枚撮影する。 用意した制作作品データ用紙 UNPA を通して配信する。
14	制作を続ける。 配布した用紙には、作品に対するコンセプトとステイトメントの記入があるので、作品制作の言語化も必要。
15	ワークシート提出 対話形式で採点をする。

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口　貞久				
クラス名	C				

授業目的と到達目標

制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。

授業概要

基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
提出課題	90
授業態度や授業に取り組む姿勢等	10

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

子供絵画・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。
（公社）二科会　会員

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11 段階グレースケール枠作成
2	課題1：基礎デッサン1 「グレースケール・遠近法基礎」…ティシュー箱 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 遠近法基礎知識及びモチーフによる遠近法の使い分け
3	課題1　続き
4	課題2：基礎デッサン2 「色鉛筆デッサン（組モチーフ）」…玉ねぎ又はリンゴ又はパプリカ・紙コップ・立方体・いろ紙 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
5	課題2　続き
6	課題3：遠近法応用 「校舎デッサン」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
7	課題3　続き
8	課題3　続き
9	課題3　続き
10	課題3　続き
11	課題4：想定デッサン 「遠近法を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び講評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題4　続き
13	課題4　続き
14	課題4　続き
15	課題4　続き・講評

科目名	工芸Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	井上　剛				
クラス名					

授業目的と到達目標

素材と技術を基にした「工芸」としてのものづくりを、その歴史、素材概要などの基礎知識と、各技法の実習を通して学習する。
ガラス工芸の基礎技法について、実作業を経験し、素材からモノができるまでのプロセスを理解する。

授業概要

【対面授業】
1) ホットワーク―吹きガラスの成形行程を理解し、器物を制作することで、用についての理解を深める。
2) キルンワーク―電気炉を用いた制作技法を実践する。ガラス素材の特性についての理解を深める。
3) コールドワーク―様々なガラスの加工方法を理解し、基礎技術を習得する。また、素材を組み合わせて造形を試みる。教員は、各技法で制作をしてきた経験を活かし、ガラス工芸全般について総合的に指導する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

各ガラス工芸技法などについて事前リサーチ

成績評価方法・基準

種別	割合（%）

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	1 日目授業ガイダンス ガラス工芸の概要／作業
2	1 日目キルンワーク（フュージング） 技法と制作行程の説明／色板ガラスのカットと成形／素材特性の説明と窯入れ作業
3	1日目キルンワーク（キルンキャスト） 粘土原型の制作
4	1日目キルンワーク（キルンキャスト） 石膏型の制作／ガラス材料の選択と充填
5	1日目キルンワーク（キルンキャスト） 焼成準備と窯入れ／焼成管理とプログラミング
6	2日目ホットワーク（吹きガラス） 吹きガラス概要・設備・機材の説明／作業の注意と工房での立ち振る舞い／道具の扱いとガラスの巻き取り
7	2日目ホットワーク（吹きガラス） ペーパーウエイトのつくり方
8	2日目ホットワーク（吹きガラス） タンブラーのつくり方
9	2日目ホットワーク（吹きガラス） 制作作業ータンブラー
10	2 日目ホットワーク（吹きガラス） 制作作業ー色ガラスを使って
11	3日目バーナーワーク（エアバーナー） とんぼ玉の基礎
12	3日目バーナーワーク（エアバーナー） とんぼ玉の制作
13	3日目コールドワーク ガラス加工法の基礎
14	3日目コールドワーク ガラス加工の実践／作品仕上げ
15	3日目講評会と授業のまとめ

科目名	金工論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 後期	形態	講義		
教員名	植田　千香子				
クラス名					

授業目的と到達目標

金属工芸の基礎知識を理解して学び，金属工芸で用いられている技法（彫金・鋳金・鍛金）・歴史を知り、現代の金属工芸について学ぶ。
受講を通じて金工の基礎的な知識、技法、作家のものつくりへの姿勢を学び各自の作品制作に結びつける。

授業概要

金属工芸では様々な作品が作られている。時代の特徴的な作品をピックアップし、それらはどんな技法、素材で作られたかを深掘りする。プリント、動画等を用いて解説していき、各自の作品制作の手助けとする。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
提出感想文	60
受講態度	40

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	工芸家のための金属ノート金属ノート		
出版社名	香取一男	著者名	香取一男
参考書名2	金工の伝統技法		
出版社名	理工学社	著者名	香取正彦・伊尾敏雄・井伏圭介
参考書名3	金工の着色技法		
出版社名	理工学社	著者名	長野裕・伊尾健二
参考書名4	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

鍛金作家の教員が幅広い視野で金工について述べます。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容

1	授業説明 金属工芸の主な技法 彫金　鋳金　鍛金
2	金属の成立ち □金　銀　銅　錫　鉄「五金」について ※金属キャラ
3	縄文　弥生時代 □青銅器　銅鐸　銅鏡　銅戈について ※マイ銅鐸
4	※おさらいクイズ
5	古墳時代　藤木古墳 □彫金について（魚子　毛彫　蹴り彫り　打ち出しなど） ※マイ古墳
6	奈良時代　大仏 □鋳造について ※マイ大仏
7	平安時代　平泉金色堂 □金箔について ※マイ玉手箱
8	刀 □刀鍛冶　刀剣クイズ
9	兜 □かわり兜 ※マイ兜
10	茶道　お茶道具 □鍛金について ※侘び寂びとは
11	幕末・明治の刀装金具 □彫金について（象嵌など）
12	幕末　明治　の超絶技巧 □煮色仕上げについて
13	幕末　明治　の超絶技巧 ※おさらいクイズ
14	□根付けを考える ※マイ根付け
15	※根付けアイディアの発表

科目名	陶芸論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	東野 眞紀				
クラス名					

授業目的と到達目標

陶芸の歴史を学び、土器や陶器や磁器といった焼物の魅力を学び、日本の文化の多様性と普遍性について,国際的視野に立っての展開に基づき、概観することを目的とする。
また陶芸に関して、美術工芸、文化と広く学ぶことにより、新しい視野で考えることができるよう、知識を増やす様々な経験を増やすよう、歴史の文脈を知って、作品を作るときの自身の創造性をを豊かにするようになる。

授業概要

日本の陶芸について、縄文時代から現代に至るまでの歴史を、社会的・文化的な背景を考えながら、その特徴をとらえる。縄文土器、渡来した須恵器、茶の湯とともに洗練された中世の工芸、近世の磁器の意匠などについて説明する。
また可能な状況であれば、武者小路千家の教職を持つ教員とともに茶の湯点前の体験をする。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

レポートを必ず提出すること。陶芸のみならず、日本の美術や工芸に関する展覧会を積極的に見に行くこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
受講態度・小レポート	50
レポート	50

教科書

教科書1	増補新装〔カラー版〕日本やきもの史		
出版社名	美術出版社	著者名	荒川正明
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】陶芸史概説 日本の歴史の大きな流れを捉える。
2	【対面】縄文土器について 長い歴史を持ち、強い個性を持つ縄文土器について学ぶ。
3	【対面】弥生土器について 技法的には大きく変化をしないながらも、変化のあった弥生土器について学ぶ。
4	【対面】須恵器について アジアの文化・陶芸の影響について考える。
5	【対面】中世の文化と陶芸について
6	【対面】茶の湯の文化と陶芸について　１
7	【対面】茶の湯の文化と陶芸について　２
8	【対面】茶の湯の文化と陶芸について　３
9	【対面】近世の陶芸について　１
10	【対面】近世の陶芸について　２
11	【対面】近世の陶芸について　３
12	【対面】近代の陶芸について1
13	【対面】近代の陶芸について2
14	【対面】現代の陶芸について
15	【対面】授業のまとめ・レポート発表

科目名	染織論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 後期	形態	講義		
教員名	舘　正明、尾原　久永				
クラス名					

授業目的と到達目標

建学の精神の総合のための分化と境界領域の開拓に基づき、新分野の開拓につとめるため、染織やテキスタイルに関する事柄を体系的に学び、染織家やテキスタイルデザイナーとしての創造性ある知識の習得を目的とする。
受講により得た知識を各自の制作、研究へ反映させることを目標とする。

授業概要

各回毎に染織に関わるキーワードを挙げ、画像や動画による講義を行う。（舘）
テキスタイルデザインの変遷とテキスタイル産業の未来までを具体的な事例をを通して講義する。（尾原）

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

染織やテキスタイルに関する情報等を取集し、展覧会等を見に行くこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
レポート	40
授業態度	40
プレゼンテーション	20

教科書

教科書1	適宜必要な資料を配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	染み染み染みる日本の心「染め」の文化		
出版社名	淡交社	著者名	福本繁樹
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

（舘）染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし、染織に関する講義を行う

（尾原）現役テキスタイルデザイナー及びデザイン会社経営者の教員が実践で得た知見を生かし、テキスタイルデザインに関する講義を行う	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	染織について
2	「染め」について ①
3	「染め」について ②
4	「織り」について①
5	「織り」について②
6	テキスタイルデザインについて①（私の染織論―私のこれまでの変遷）
7	テキスタイルデザインについて②（テキスタイルデザインの変遷―日本と海外）
8	テキスタイルデザインについて③（色彩の考え方―流行色）
9	テキスタイルデザインについて④（プモローション―展示会や情報発信、PR）
10	テキスタイルデザインについて⑤（これからのテキスタイル産業）
11	「ファイバーアート」について
12	「染織と現代美術」について
13	「染織と反復」について
14	「染織と偶然」について
15	プレゼンテーションと授業のまとめ

科目名	服飾史	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	中野 朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の服飾の成立過程とあり方、現在に受け継がれる「きもの」文化の発生と変遷や多様性について講義する。日本の衣服の根源と流行の創造、継承について知り、考えることで、自身の作品制作の基礎知識、舞台衣裳等の選定の際の基礎知識、絵画制作に際しての基本知識等をひろく学び、創作活動に活用することができるようになることを目標とする。

授業概要

日本の服飾文化に関して、中国文化の影響と日本独自の服飾文化の成立・発展、社会状況の変化と服飾文化の変容（「きもの」の成立）、染織技術の発展と流行の発生・変遷に重点をおいて授業を行う。
特に、江戸時代の染織技術の発展とそれに伴う流行の発生・変遷について大阪や京都を中心とした地域に焦点を当てながら丁寧に紹介する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日本の服飾史について取り扱う講義である。
※西洋服飾史については取り扱わないので注意すること。
《予習》・日本の服飾について論じるため、日本における各時代の時代区分等について
あらかじめ予習して授業にのぞむことが望ましい。
・きものや服飾に関連する展覧会などに足を運ぶことを推奨する。
《復習》・授業中に紹介する作品あるいは関連する絵画作品等が掲載された書籍・図版等を図書館等で確認することで授業内容を復習することが望ましい。
《評価》・評価は下記によって総合的に行う。
(1)授業内容を確認するためのリアクションシートの記入・提出
(2)授業に取り組む姿勢
(3)期末に実施するレポート課題
(4)その他　必要に応じて教員が指定する展覧会の見学レポートを実施する場合がある
なお、評価の配分は「成績評価方法・基準」に示したとおりとする。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点（授業態度）	10
授業時間中に課す課題（リアクションシート）	40
期末のレポート課題	50

教科書

教科書1	教員作成のプリントを使用する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	特に指定しない		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

大阪歴史博物館勤務、学芸員（工芸史、染織・服飾史担当）
工芸史を専門としています。染織・服飾史の研究をライフワークとしており、染織品の研究としては、大阪随一の両替商で豪商として知られた鴻池家が所蔵していた「名物裂」と呼ばれる染織品についての調査研究のほか、「上代裂」と呼ばれる法隆寺や正倉院に伝来した染織品の調査研究を行ってきました。現在は、近代の大阪を中心として取引された「捺染プリント」についての研究も手がけています。博物館での学芸員としての仕事では、工芸全般について研究し、なかでも近代工芸と茶の湯工

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	講義のガイダンスならびに日本服飾史の概要 ・「服飾」とはなにか
2	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響 ・飛鳥時代から奈良時代の服飾と中国および朝鮮半島からの影響について
3	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響 ・中国および朝鮮半島からの影響について
4	平安時代から鎌倉時代の服飾 ・束帯と女房装束の変遷
5	武家の台頭と服飾の変容 ・武家に好まれた服飾について
6	桃山時代の服飾 ・桃山時代に流行した服飾とそのデザインならびに加工技術について
7	江戸時代の服飾と諸工芸 ・江戸時代の服飾の大まかな変遷と服飾以外の諸工芸のデザイン傾向、両者の異同について考える
8	江戸時代前期の服飾 ・江戸時代前期の服飾の変遷や加工技術について論じる
9	江戸時代中期の服飾 ・江戸時代中期の服飾の変遷や加工技術について論じる
10	江戸時代後期の服飾 ・江戸時代後期の服飾の変遷や加工技術について論じる
11	江戸時代の大阪の服飾 ・江戸時代後期を中心に、江戸地域とは異なる大阪の服飾の好みを探る
12	江戸から明治の「舶来趣味」(外国染織の利用、相関性) ・江戸時代から明治時代に多く舶載された諸外国の染織について知り、これらの染織品が日本の服飾にどのような影響を与えたのかについて考える
13	近代の服飾①・明治時代の新政府主導で推進された西洋化が人々の服飾にどのような影響を与えたのか。「きもの」「洋服」「和服」という語の成立にも注目しつつ論じる
14	近代の服飾②・大正から昭和初期の「東京」地域と「大阪」地域の服飾流行の相違や共通点について、同時期に製作されたきものに加え、多彩な絵画作品などを参照することでより理解を深めていく
15	服飾史講義のまとめ ・講義内容を振り返り、日本の服飾の成立過程とあり方やその多様性について振り返る

科目名	ガラス工芸論	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	穐吉　学、佐々木　雅浩				
クラス名					

授業目的と到達目標

ガラス工芸の歴史的変遷、素材としての特徴、技法に至るまで幅広く考察しながら、現代ガラス、将来へのガラスへと結びつけて行く。

授業概要

PC プレゼンテーションや動画による講義と、参考作品を実際に手で触って実感してもらいながら授業を進める。学生にはリサーチ発表とレポート課題提出を必須とする。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
リサーチ発表	60
レポート課題	30
積極的な授業態度	10

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	世界ガラス工芸史		
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男　編
参考書名2	「自分だけの答え」が見つかる　13歳からのアート思考		
出版社名	ダイヤモンド社	著者名	末永　幸歩
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

佐々木　雅浩 （集中講義担当） 愛知教育大学教授現代ガラス造形作家である教員が、国内外で広く制作活動と作品発表を行ってきた経験を活かし、美術作品の見方、ガラスの特性、制作技法、将来性について授業する。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ガラス技法論Ⅰ　ガラスの制作技法と設備見学　ガイダンス
2	図書館見学　大学の蔵書を把握する（期末レポートあり）
3	ガラス工芸史Ⅰ　古代
4	ガラス工芸史Ⅱ　中世
5	ガラス工芸史Ⅲ　近代
6	ガラス技法論Ⅱ　素材としての特徴（ひずみ・徐冷・電気炉焼成プロセス）
7	現代ガラスの文脈Ⅰ　20 世紀美術　現代彫刻
8	現代ガラスの文脈Ⅱ　スタジオグラスムーブメント
9	現代ガラスの文脈Ⅲ 「工芸」としてのガラス（日本の美「茶の湯」の発展とその歴史）
10	芸術家・中川幸夫のドキュメンタリー鑑賞　現代美術と華道とガラスの接点
11	リサーチプレゼン制作
12	リサーチプレゼン制作
13	リサーチプレゼン発表
14	リサーチプレゼン発表
15	リサーチプレゼン発表レポート提出『芸術に関する本を読んで』 4000字
16	<集中講義・1日目＞　美術作品鑑賞方法Ⅰ　ガイダンス
17	<集中講義・1日目＞　美術作品鑑賞方法Ⅱ　美術史
18	<集中講義・1日目＞　美術作品鑑賞方法Ⅲ　工芸史
19	<集中講義・1日目＞　美術作品鑑賞方法Ⅳ　世界ガラス工芸史
20	<集中講義・1日目＞　美術作品鑑賞方法Ⅴ　日本ガラス工芸史
21	<集中講義・2日目＞　吹きガラスデモⅠ
22	<集中講義・2日目＞　吹きガラスデモⅡ
23	<集中講義・2日目＞　自作品について
24	<集中講義・2日目＞　ガラス工芸の現在
25	<集中講義・2日目＞　ガラス技法論Ⅲ　技法の発展
26	<集中講義・3日目＞　ガラス材料学
27	<集中講義・3日目＞　ガラス工業の世界
28	<集中講義・3日目＞　制作のための環境づくり
29	<集中講義・3日目＞　卒業後の進路紹介
30	<集中講義・3日目＞　グループワーク・記述試験

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	演習		
教員名	河南　あすか				
クラス名					

授業目的と到達目標

作品制作やプレゼン資料作成のための基本的なアプリケーション知識やデザインスキルの習得を通じて、作品の発表や提案(コンペ・インターン含む)に欠かせないムードボードや完成度の高いポートフォリオを制作することを目指します。

授業概要

対面授業作品の魅力を伝えるためには様々な素材が必要となります。
この授業では作品素材(サイズ・マテリアル・技法・イメージなど)を基礎的な図面や写真・スケッチ・テキストとして実際に制作することで今後のプレゼンなどに役立てる素材集め・スキル習得を目指します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

制作にあたって各自必要な機器や記憶メディアを各自必要に応じて準備・持参してください。
(推奨例)
・USB メモリー(32GB 以上※推奨 64GB／USB3.0)
・筆記具(各自必要に応じて)
・スマホ・パソコン・タブレット等
・データの移動に必要な各種アダプター
・Adobe CC(有償サブスク登録か一部アプリ使用可能な無料登録）
・スマホや PC のペイントアプリなど

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
成果物の完成度	50
必要なスキルの習熟度	20
意欲的な課題への取り組み	30

教科書

教科書1	適時資料配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

出版社名		著者名	

参考 URL
Adobe Creative Cloud ラーニングとサポート {https://helpx.adobe.com/jp/support/creative-cloud.html?promoid=NGWGRLZ4&mv=other}

特記事項
制作内容によって教室変更などがあるので常に連絡最新情報を確認してください。

教員実務経験
印刷会社勤務での自費出版相談員・データ制作(DTP)実務経験を通して PC や印刷・デザインについて学び、フリーランスでグラフィックデザイナー・DTP オペレーター・漫画家・イラストレーターなど様々な作品表現の場で現在も活動中です。活動を通じて得た知見を皆様に伝えるため、デザイン学科プロダクトデザインコースや工芸学科・文芸学科にてデジタルスキルやデザイン関係の講義・担当しております。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	授業についての概要説明(ガイダンス・ヒアリング)
2	作品視点～プロダクト作品としての視点【基本的な情報について／三面図など】
3	作品視点～プロダクト作品としての視点【外観について／写真など】
4	作品視点～プロダクト作品としての視点【作品意図について／テキスト・イメージボード・スケッチなど】
5	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルを撮影する】
6	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルを描く】
7	作品を伝えるスキル1～マテリアルと向き合う【マテリアルの特性を知る】
8	作品を伝えるスキル2～技法と向き合う【制作技法について語る】
9	作品を伝えるスキル2～技法と向き合う【制作過程の記録】
10	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『色』についての考察】
11	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『形状』についての考察】
12	作品を伝えるスキル3～イメージと向き合う【『意図』についての考察】
13	他者に作品を伝えるためのレイアウト制作【情報をまとめ実際にページとして制作】
14	他者に作品を伝えるためのレイアウト制作【情報をまとめ実際にページとして制作】
15	成果物の合評・講評・まとめ

科目名	金工実習Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川　政弘				
クラス名					

授業目的と到達目標

アセチレン溶接、MIG 溶接、Tig 溶接などの溶接機材の取り扱いを学び、溶接技術を習得する。安全でスムーズな溶接作業ができ、鉄素材の特性を理解する事を目標とする。
自ら選んだ展示空間に作品を制作し、その経験から得たものを 4 回生の制作につなげる。

授業概要

前期はガス溶接や電気溶接を学び、鉄板を使ったて干支のオブジェとそれに関連付けた展示台を制作する。後期は「環境と向き合う」をテーマとして、富田林市寺内町の田中家住宅にてフィールドワークを行い、各々が展示したい場所を決め、その空間に合った作品を制作する。完成後、田中家住宅に作品を展示し一般公開し現地にて合評を行う。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

鉄でつくられた彫刻作品、工芸作品を調べてパワーポイ ントで編集し授業内で発表してもらいます。
前期中にアセチレンガス技能講習修了証を取得してもらいます。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	40
作品構想、完成作品	60

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	佐々木正人
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

長谷川政弘金属彫刻　https://masaab.sakura.ne.jp

特記事項

教員実務経験	
金属造形作家である教員が豊かな経験を生かした広い視野に立った指導を行う。	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	学生によるパワーポイントでの発表。 前期の課題説明。
2	アセチレン溶断、エアープラズマー溶断の実技講習
3	アセチレン溶接、MIG 溶接の実技講習
4	干支制作:アイデア提出、紙による模型つくり
5	干支制作:溶断、切断
6	干支制作:成形(曲げ、叩きなど)溶接
7	干支制作：成形（曲げ、叩きなど）溶接
8	干支制作:仕上げ→完成
9	台座の構想と設計
10	台座の制作
11	台座の制作
12	台座の制作
13	作品と展示台の組み立て→　完成
14	学外授業
15	作品の合評　後期課題の説明
16	後期課題「環境と向き合う」 環境と作品について考える　教員によるレクチャー
17	寺内町田中家住宅にてフィールドワーク、作品の設置場所を決定する
18	アイデアと制作構想の発表1
19	アイデアと制作構想の発表2
20	作品制作1
21	作品制作2
22	作品制作3
23	作品制作4
24	作品進行状況の中間報告
25	作品制作5
26	作品制作6
27	作品制作7
28	作品制作8
29	田中家住宅にて作品展示を行う
30	「環境と向き合う」富田林市寺内町田中家住宅にて公開合評

科目名	金工実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	水野　年彦、吉田　昇平				
クラス名					

授業目的と到達目標

前期：ロウ型鋳造の制作。
ロストワックス（遠心鋳造）より大きめの型を制作していきます。ロウの種類は、蜜蝋を主に使い　、パラフィンワックス・マイクロワックスなど、作品や造形に適したワックスを調合も行います。原形・成型・脱蝋・鋳込み・仕上げ。一連のロウ型鋳造の技術を理解し習得する事を目標とします。
後期:鋳造技法を用いた作品の制作。
これまで習得した様々な鋳造技法から、自ら技法を選定し作品を制作する。(複合も可)
・鋳造技法をより深く理解習得することを目標とする。
・鋳造技法に関する理解度や興味を測るとともに、自由課題における造形に対する技法の選定やアプローチ方法を習得することを目標とする。

授業概要

【対面授業】前期：ロウ型鋳造の作品制作。とその展示方法。
蜜蝋という柔らかい素材を触りながら手の中で考え蝋の可能性を探ってもらい,イメージやテーマを決めての展示・見せ方（プレゼンテーション）も同時に考えていく。型は石膏による埋没なので型から原形を取り出す工程がない分自由な形態の原形制作。
後期：鋳造技法を用いた作品制作とその展示方法。
これまで、ガス型鋳造、ロウ型鋳造、ロストワックス鋳造という鋳造技法を実習を経て習得した。
それらの技法を、自ら選定して自由課題として作品の制作を行う。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

前期：蝋型で作られている作品を何点かピックアップしてください。（工芸でも彫刻でも日本でも海外でも可）パソコンでもスマートフォンでもいいので直ぐに見られるようにまとめておいて下さい。
後期：アイデアを何点かまとめておく。
スケッチなどのイメージ図及び、技法を記載する。 (イメージ図に対して、なぜその技法を選定したかも説明できるようにしておくこと。)
＊鋳造に限らず金属工芸は常に材料や火を使っての作業になりますので、火傷や怪我を防ぐために作業に適した服装・身なりで、制作にも危険が伴い常に緊張感を持って受講して下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
制作作品	70
授業態度	30

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	美術鋳物の手法		
出版社名	株式会社　アグネス技術センター	著者名	鹿取　一男
参考書名2	蝋型彫刻の技法		
出版社名	株式会社　美術出版社	著者名	山本正道・石井　正・伊藤忠一
参考書名3	ワックスモデリングの基礎		

出版社名	柏書店松原株式会社	著者名	露木　宏
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

鋳金作家と金属造形作家が作品制作の経験を活かして制作に対応した指導をします。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	【対面】蝋型鋳造の課題説明。蜜蝋の調合・アイデアチェック。
2	【対面】アイデアチェック。（展示も踏まえてのアイデア）
3	【対面】蝋を使っての原型制作
4	【対面】蝋を使っての原型制作
5	【対面】蝋を使っての原型制作
6	【対面】蝋を使っての原型制作　・湯道・湯口付け
7	【対面】蝋を使っての原型制作　・湯道・湯口付け
8	【対面】対価石膏の調合・原型の埋没
9	【対面】展示のプランニング・展示台・展示方法・脱蝋の準備・窯入れ
10	【対面】ブロンズ・コークス炉での鋳込み
11	【対面】蝋型鋳造　作品の仕上げ　・色ずけ。
12	【対面】蝋型鋳造　作品の仕上げ　・色ずけ。　展示台の作成。
13	【対面】蝋型鋳造　作品の仕上げ　・色ずけ。　展示台の作成。
14	【対面】蝋型鋳造　作品の仕上げ　・色ずけ。　展示台の作成。
15	【対面】「蝋型鋳造」　合評　：　学生の作品説明・教員による講評　　次課題の説明
16	【対面】後期課題の説明。準備物を用いたヒアリング、アイデアチェック。
17	【対面】アイデアチェック。(展示もふまえてのアイデア)
18	【対面】原型制作
19	【対面】原型の制作
20	【対面】原型の制作
21	【対面】原型の制作、型の制作。
22	【対面】原型の制作。型の制作。
23	【対面】型の制作、原型の埋没
24	【対面】展示のプランニング・展示台・展示方法・脱蝋の準備・窯入れ
25	【対面】鋳込み
26	【対面】作品の仕上げ
27	【対面】作品の仕上げ。展示台の制作。
28	【対面】作品の仕上げ。展示台の制作。
29	【対面】作品の仕上げ。展示台の制作。
30	【対面】課題作品の合評。学生による作品説明、教員による講評。

科目名	陶器実習Ⅰ	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中　雅文				
クラス名					

授業目的と到達目標

手捻り、轆轤、石膏型成形など土に対する基本的な制作技法を習得する中で、素材の特性を理解し、その造形表現を研究する。またその中で技法の応用や組合せなどを模索し、幅広い視野で自己表現を探求する。

授業概要

陶芸の制作で最も大切なことは素材（粘土、釉薬、装飾材など）の特性を熟知することである。
そのために先ずは基本的な造形技法（手捻り、轆轤、石膏型成形）と装飾技法（削り、絵付け、釉薬）を広く体験し、結果の考察を繰り返すことで素材についての理解を深める。
また課題制作の中で、計画を立てることや制作途中の作品の管理方法についても学び、完成までの基本的な流れを理解することで自主的且つ意欲的な制作スタンスの獲得を目指す。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より様々なジャンルの展覧会等で実物の作品を鑑賞し、自作との考察を深めておくこと。
限られた時間で効率的に制作を進めることができるよう計画性を持って課題に取り組むこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
作品	50
制作姿勢	30
デザイン画、マケット、レポート等の提出物	20

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

{田中雅文 Official site,http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html}

特記事項

陶器実習Ⅰ(月曜日)、陶器実習Ⅱ(水曜日)、焼成実習Ⅰ(金曜日)は、同課題を通して連動し作品制作を進めていきます。
教員実務経験
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	課題説明・道具作り
2	道具作り
3	土練り（荒練り、菊練り）
4	手捻り成形による造形・テーマ「音楽」の制作 制作計画、個別面談
5	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
6	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
7	轆轤成形による湯呑・テーマ「連続模様」の制作轆轤の基礎
8	轆轤の基礎・制作進行状況により、随時個別指導を行う
9	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
10	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
11	石膏型成形による皿・テーマ「生き物」の制作原型制作
12	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
13	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
14	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
15	合評（課題提出）
16	石膏型による立体造形・テーマ「貝」の制作 制作計画、個別面談
17	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
18	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
19	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
20	轆轤成形による鉢・テーマ「草花文、吉祥文」の制作制作計画、個別面談
21	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
22	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
23	轆轤による円筒を基本とした造形・テーマ「時間」の制作／制作計画、個別面談
24	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
25	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
26	手捻り成形による自由造形・テーマ「自由」の制作制作計画、個別面談
27	成形・制作進行状況により、随時個別指導を行う
28	装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
29	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
30	合評（課題提出）

科目名	陶器実習Ⅱ	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	西川　勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

陶芸の基礎的な形態と装飾についての理解を深め、形態と装飾の融合とその可能性を探求する。

授業概要

対面授業　陶芸において装飾は大切な要素である。作られた作品がより魅力的に加飾されなくてはならない。そのためには、筆描や化粧土によるかき落とし、象嵌、顔料による彩色、施釉など、文様と色彩のバランスを考察しながら授業をすすめていく。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

各課題には、アイデアスケッチ、デッサン、エスキース等を提出する事。
夏季休暇中の研究、論文あり

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業に対する姿勢	30
課題作品の評価	70

教科書

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	なし		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

数多くの公募展入選と百貨店などで個展を開催し、様々な受賞歴を持つ経験豊富な陶芸家が、釉薬　焼成　粘土造形の技術を教え、表現の幅を広げるようにする。

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	課題説明
2	道具作りの説明と種類
3	竹べら、カンナ、こて、トンボなど陶芸で使う道具を作る
4	手びねりによる作品制作をおこなう（曲線または、角のある形体）
5	主に紐づくりによる技術を習得する。
6	形完成後、下絵具(化粧土　白　黒　青などの色化粧）を使い掻き落としによる加飾を行う 赤合わせ土を使用し各5枚、2セット
7	化粧による加飾完了後、素焼き　施釉(透明釉）を行い 1230℃で本焼き(酸化焼成）を行う
8	轆轤成形による湯呑制作(信楽粘土）
9	大きさ直経 8 ㎝高さ 10 ㎝以内(焼成後）
10	シッタを使い高台づくり
11	乾燥し素焼きをおこなう
12	素焼き後、呉須、色呉須による加飾を行う
13	加飾後本焼きをし、完成
14	石膏型による皿の制作(テーマ生き物など）
15	信楽、赤土粘土を使うそれぞれ 5 点ずつ(10 点）
16	原形を粘土で作り、石膏を流して型を作る タタラ板(スライスした板状の粘土）を型に押し当てて成形する
17	大きさ長辺 21 ㎝程度深さ任意 乾燥後素焼きを行う
18	加飾を行う、呉須、アマコ絵具 4 色使用
19	石膏型による立体造形制作(テーマ貝など）
20	石膏型制作（合わせ型）抜け勾配など石膏技術の習得 2～3面割にする
21	粘土で原形を作り、石膏で型をとる。 それを元に、赤、信楽粘土でそれぞれ 4 点ずつ制作する 大きさ20㎤程度(容積換算）
22	素焼き、施釉、本焼きののち完成 釉薬は材料演習で実験したものを使用、本焼きして完成
23	轆轤によるボール制作（5 組2セット）直経15㎝、形状にあう深さ(焼成後）
24	素焼き後、加飾を行う（呉須、色呉須使用）施釉、本焼き(酸化、還元焼成）
25	轆轤による円筒を基本とした造形 轆轤技術の向上目指す。3 ㎏の粘土で直経15㎝、高さ30㎝の円筒をつくる
26	円筒が出来た者は、胴を膨らせて壷のような形態のものに挑戦する 素焼きの後、加飾、施釉、本焼き(酸化、還元）完成
27	手びねりによる自由造形制作 テーマは各自、自ら考える
28	粘土、釉薬、加飾それぞれ自ら選ぶ
29	大きさ、焼成後30㎤程度(容積換算）
30	加飾終了後、乾燥、素焼き、本焼きを行う。酸化、還元焼成の理解を深める

科目名	ガラス工芸実習Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標

実際に使うことを考慮したテーブルウエアー、器などをデザインし制作することで発想とデザイン能力を養い、同時に吹きガラス技法のさらなる技術習得を目指します。作品制作の前にコンセプトボードを制作し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行いプレゼン能力の向上も目指します。

授業概要

対面授業
アイディアスケッチに基づくディスカッション、プレゼンテーション、制作技法デモ、制作実習、講評会の順序で授業を基本的に進めます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する事。
ハイヒールでの制作は禁止します。
教員、助手の指示に従い安全な作業を心がけてください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
制作作品	50
プレゼンテーション	50

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	『自分のタンブラー』の課題説明、球体の制作デモ
2	アイディアスケッチ提出／面談 制作実習

3	面談／デモ 制作実習
4	面談／デモ 制作実習
5	パワーポイントによる作品プレゼンテーション／ボード提出 講評会
6	タンブラーの制作実習　各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
7	タンブラーの制作実習　各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
8	「自分の花器」の課題説明、制作デモ タンブラー制作実技試験
9	アイディアスケッチ提出／面談 タンブラー制作実技試験
10	面談／デモ タンブラー制作実技試験
11	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会 タンブラー制作実技試験
12	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
13	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
14	花器制作実習
15	前期講評会
16	「飲器と食器」課題説明　制作デモ 制作実習
17	アイディアスケッチ提出／面談 制作実技試験
18	面談／デモ 制作実習
19	面談／デモ 制作実習
20	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
21	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
22	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
23	制作実習
24	「自分のテーブル」課題説明　制作デモ 制作実習
25	面談／デモ 制作実習
26	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
27	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
28	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
29	制作実習
30	講評会

科目名	ガラス工芸実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野　宏				
クラス名					

授業目的と到達目標

前期／型作り、ホットキャスト、ホットワーク、コールドワーク技法をさらに習得し、立体物による制作コンセプト表現を学びます。後期／グループ展のための複数の作品制作を通し各々の制作スタイルを模索すると同時に、コンセプトを作品で表現することの経験を深め、卒業制作の前段階の準備をする。

授業概要

対面授業
前期／ホットキャスティング、吹きガラス、コールドワーク技法を活用し、課題に沿って立体表現について学習します。
後期／様々な技法を活用し、各々の学生の制作コンセプトに基づいて数展の作品を制作し、後期末にグループ展を行います。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する。
ハイヒールでの作業は禁止します。
教員及び助手の指示に従い安全に作業を行いましょう。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
制作作品	70
プレゼンテーション	30

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験	
ガラス工芸作家　ガラス工房経営	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	課題説明 「コンティナー」 サンドキャスト、水砂キャストの技法解説とデモ
2	アイディアスケッチ提出／面談 モールドミックスキャストの技法説明とデモ
3	パワーポイントによる「プレゼンテーション」 モールドミックスキャストの技法説明とデモ
4	水ガラスキャスト技法解説とデモ
5	ビレットキャスト技法の技法解説とデモ 面談、制作実習
6	面談、制作実習
7	面談、制作実習
8	課題説明「見せ場」
9	アイディアスケッチ提出／面談
10	パワーポイントによる「プレゼンテーション」 面談、制作実習
11	面談、制作実習
12	面談、制作実習
13	面談、制作実習
14	制作実習
15	講評会
16	後期課題説明／グループ展の開催について
17	アイディアスケッチを通しての面談
18	アイディアスケッチを通しての面談
19	プレゼンテーションの為の資料提出／面談
20	制作プレゼンテーション／講評
21	制作実習／制作アドバイス
22	制作実習／制作アドバイス
23	制作実習／制作アドバイス
24	制作実習／制作アドバイス
25	制作実習／制作アドバイス
26	制作実習
27	制作実習
28	制作実習
29	講評会
30	作品の写真撮影指導

科目名	染織表現実習	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	舘 正明、玉井 佐知				
クラス名					

授業目的と到達目標

ディプロマポリシーにある工芸作家や職人の育成に基づき、染織技法の習得を目指す型染の特性を理解し、送り(リピート)の基礎と１枚型での制作工程を学び、各自の表現力を養う（玉井）
ろう染めによる表現方法を学び、技法の理解と技術の習得、及びそれらの自己表現への反映を目指す（舘）

授業概要

スケッチから図案化し、送り(リピート)と１枚型両方の型染制作を行う
型染の歴史を理解し、現代においてどのような可能性のある技法か思考する(玉井)
スケッチ、下絵、染色と三段階のプロセスを踏むことで、スケッチを作品へと昇華させ、絵画的なろう染め作品を制作する
ろう染め技法を研究することで多様な表現方法を習得する（舘）

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

制作に関係するスケッチ、アイデアスケッチ等を常に行うこと
実習に適した服装で出席すること

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
提出作品	80
授業への取り組み姿勢	20

教科書

教科書１	適宜プリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
(玉井)染色作家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色表現の技法について指導する (舘)染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色表現の技法について指導する.

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題の説明、型染についての説明 第 1 課題「1 枚型」の下図制作 スケッチ、アイディア出し
2	型の特性と制約についての説明 第 1 課題　下図制作
3	第 1 課題　下図制作、色計画
4	第 1 課題　下図完成、ツリチェック、トレース、型彫り
5	第 1 課題　型彫り、染料づくり
6	第 1 課題　糊置き
7	第 1 課題　地入れ第 2 課題「送り」の下図制作
8	第 1 課題　色作り、色差し
9	第 1 課題　色挿し
10	第 1 課題　フィキサー定着、水元 第2課題　型彫り
11	第 2 課題　糊置き
12	第 2 課題　地入れ、色差し
13	第 2 課題　色差し
14	第 2 課題　フィキサー定着、水元
15	第 1 課題・第 2 課題　パネル張り、仕上げ 合評
16	後期授業と基本的な制作工程の説明 第1課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 アイデアスケッチ、色草稿
17	第1課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 色草稿、原寸草稿
18	第1課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 トレース、染色工程開始
19	第1課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 染色行程、脱ろうソーピング
20	第2課題　ろう染め技法の研究 面について(凸版)
21	第2課題　ろう染め技法の研究 面について(半防染)
22	第2課題　ろう染め技法の研究線について(エッチング、チャンチン) 第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作 アイデアスケッチ
23	第2課題　ろう染め技法の研究 点について(まきろう) 第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作 色草稿
24	第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作

	原寸草稿
25	第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作 トレース・染色工程開始
26	第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し
27	第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し
28	第3課題　与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程脱ろう ソーピング
29	表装　パネル張り
30	合評

科目名	テキスタイルアート実習Ⅰ	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	岸田　めぐみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

織物制作に必要な基本的知識（織布の構造や素材ごとの性質等）や技術（織り方・道具や素材の扱い方）を習得することを目指す。本学ディプロマポリシーにある学と芸の実用的合理性を重視し、織物技術に関する知識を得た上で実践をおこなうことで、次学年の作品制作において、表現の探求や展開を着実に進めていくための一助となることを目標とする。

授業概要

織りの工程を理解するために、平織・組織織・絣織・綴織等の技法を用いて制作課題に取り組む。
植物繊維や動物繊維等様々な素材の糸を使用して、展示を目的とした作品（タペストリー等）、実用を目的とした作品（帯・敷物等）、小作品冊子を制作する。本実習では糸を織る他、糸を染める・作る方法も学習する。また、授業内容の理解を深めるために、前期・後期授業の最終日に実習ノートの提出を課す。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

各自作業に適した服装で授業に参加すること。特に糸の染色作業時は作業着・作業靴を着用のこと。
授業時間内に指示した準備物は、必ず次回授業時までに用意し、持参すること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
提出作品	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書

教科書1	授業課題に応じて適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

授業内容は、授業進行状況により変更する場合があります。

教員実務経験

テキスタイルアート作品を制作する作家が、作品を制作・発表してきた経験を活かし、織物の制作方法や作り手の感性を織物に表現する方法等を指導する。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	授業について説明織りの組織サンプル制作 課題①「裂織」 課題説明、計画、デザインのプランニング
2	課題①「裂織」 糸染め（直接染料）
3	課題①「裂織」 染色糸の玉巻、たて糸準備、よこ糸準備
4	課題①「裂織」 織り
5	課題①「裂織」 織りはずし、仕上げ方法説明 課題②「夏帯」 課題説明、計画、たて糸準備
6	課題①「裂織」 作品合評 課題②「夏帯」 たて糸準備
7	課題②「夏帯」 たて糸準備、織り
8	課題②「夏帯」 織り、織りはずし、仕上げ方法説明
9	課題②「夏帯」 作品合評 課題③「絣織」 課題説明、糸の精練
10	課題③「絣織」 糸の玉巻、プランニング確認、たて糸準備
11	課題③「絣織」 よこ糸の絣括り、たて糸準備
12	課題③「絣織」 よこ糸の糸染め、たて糸準備
13	課題③「絣織」 よこ糸の絣ほどき、織り
14	課題③「絣織」 織り、織りはずし、仕上げ方法説明
15	課題③「絣織」 作品合評夏期課題説明 課題④「二重織」 よこ糸準備 実習ノート提出
16	夏期課題提出課題④「二重織」 織り方説明、織り 課題⑤「綴織」 課題説明、たて糸玉巻
17	課題④「二重織」 織りはずし、仕上げ方法説明 課題⑤「綴織」 たて糸準備、デザイン確認・推敲
18	課題⑤「綴織」 糸染め（酸性染料）
19	課題⑤「綴織」 染色糸の玉巻、下図の作成、よこ糸準備
20	課題⑤「綴織」 織り方説明、織り
21	課題⑤「綴織」 織り
22	課題⑤「綴織」 織り
23	課題⑤「綴織」 織り
24	課題⑤「綴織」 織り
25	課題⑤「綴織」 織り、織りはずし、仕上げ方法説明 最終課題「小作品冊子」 課題説明
26	課題⑤「綴織」 作品仕上げ作業 最終課題「小作品冊子」 制作方法指導、制作準備
27	課題⑤「綴織」 作品合評 最終課題「小作品冊子」 各自制作
28	最終課題「小作品冊子」 各自制作
29	最終課題「小作品冊子」 各自制作、作品仕上げ作業
30	最終課題「小作品冊子」 冊子製本、作品合評 実習ノート提出

科目名	絵画概論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	泉谷　淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標

テーマに掲げる「絵画の可能性と多様性」に多面的にアプローチし、絵画への理解を深めるとともに、美術の制作に役立つ鑑賞力を養うのが授業目的である。授業を通して、鑑賞力に含まれる芸術的感受力、内容読解力、造形的思考力、総合的批評力、発展的着想力を高めていくのが到達目標となる。

授業概要

西洋絵画、日本絵画、前衛絵画、身近な絵画を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショー等で提示して、「考えながら見る」習慣を徐々に身につけさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

事前に予備知識を入れる必要はないが、とにかく授業に集中して参加し、気づいたことや考えたことをメモする習慣を着け、レポート作成に備える姿勢が望まれる。ネットなどに上がっている知識は、誰でも入手できるのであまり評価されない。なお、テキストは事前に購入しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前半と後半の授業の中から 3 つの授業を選んで行う2回の「授業のまとめ」レポート」	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書

教科書1	美との対話ー鑑賞への誘いー		
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫
教科書2			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	鑑賞ガイドブック・日本美術 101、鑑賞ガイドブック・西洋美術 101		
出版社名	三元社	著者名	神林恒道、新関伸也、泉谷淑夫　他
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

全部の講義に出席していても、2回の「授業のまとめレポート」の記述内容から著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。またレポートに授業内容と関係のない内容をたくさん書いても評価されません。各レポートの合格ラインは 60%です。

教員実務経験

教員は長年にわたって絵画制作・発表と並行して、実践的な鑑賞教育について研究し、著書や論文も著している。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス：スライドショーによる授業者の絵画制作紹介と絵画制作における鑑賞の重要性についての講義
2	社会における美術の役割　TVドラマの録画視聴とスライドショーによる物語の構造分析
3	制作のモチーフとテーマの追求　北斎の「大波」の変遷と真髄　90 年に渡り絵画の創造に取り組んだ浮世絵師・北斎が生涯のテーマとした「大波」の表現にフォーカスし、その発祥と変遷、「大波」に隠された北斎芸術の真髄を、代表作《神奈川沖浪裏》や「幻の大波」を中心に、豊富な視覚的資料を活用して探っていく。
4	個性の確立と展開①ゴッホとラーション　同年生まれで共に日本美術の影響を受けたゴッホとラーションの対照的な人生と画業をスライドショーで比較鑑賞し、両者が到達した個性豊かな絵の世界を味わうとともに、それぞれの魅力を探っていく。
5	個性の確立と展開②　アンリ・ルソー　日曜画家としてフランス画壇にデビューし、「稚拙な画家」として人々から嘲笑されたルソーが、素朴派の元祖としてピカソに高く評価されるようになった理由を、日本の画家たちにも多くの影響を与えた風景画や代表作のジャングル風景などから探っていく。
6	個性の確立と展開③フジタと戦争　エコール・ド・パリの寵児となったフジタの異国の地での個性の確立と展開の過程をスライドショーで辿り、「乳白色の肌」の本質を探るとともに、帰国後のフジタの戦争への対応を検証し、画家としての生き方を考える。
7	西洋絵画の主題と表現「光」　西洋絵画の写実表現の核とも言える「光」の表現において、近年日本で大ブレークした 17 世紀オランダのフェルメールに焦点を当て、日本における受容の経緯や代表作を紹介していく。合わせてシュルレアリストのダリによるオマージュやメ―ヘレンの贋作事件にも触れていく。
8	レポート作成①　前半6回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめ」レポートを作成する。
9	日本絵画の主題と表現「虫」　西洋絵画の主題とは対照的な「虫」という日本的な主題にアプローチし、江戸時代の若冲や歌麿、北斎、アール・ヌーヴォーのガレ、近代の近代の御舟や靉光、現代の宮崎駿や熊田千佳慕などの多彩な作家の表現から日本人の「虫を愛でる心」を探っていく。
10	現代美術の冒険者たち①　時代錯誤？ダリの宗教画　シュルレアリストの旗手として活躍したダリの時代錯誤にも見えるカトリックへの帰依と宗教画の大作の数々を紹介し、その裏に隠されたガラへの献身的な愛と崇拝を作品から探っていき、ダリの宗教画に込められたものを明らかにしていく。
11	現代美術の冒険者たち②　現代において「造形芸術の可能性と多様性」を追求する魅力的で刺激的な作家として、福田繁雄と福田美蘭父娘を取り上げ、ユーモアとウィット、風刺と批評精神に富んだ作品群をスライドショーで詳しく紹介し、極上ウィットの DNA がどのように引き継がれているのかを見て行く。。
12	現代美術の冒険者たち③　現代において「絵画の可能性と多様性」を追求する魅力的で刺激的な作家として神出鬼没の路上アーティスト・バンクシーを取り上げ、主な代表作や近作をスライドショーで詳しく紹介するとともに、世界の危機に立ち向かうバンクシーからのメッセージと制作姿勢について考察する。
13	複数画面による表現①　屏風絵と琳派の絆　視覚装置としての絵画の可能性の観点から日本の屏風絵を取り上げ、屏風絵の名作を紹介するとともに、そこに隠された構造と魅力に迫る。合わせて宗達。光琳、抱一の屏風絵を通して「琳派の絆」についても多角的に検証していく。
14	複数画面による表現②　文字なし絵本に学ぶ　複数画面で構成される絵本の中でもユニークな「文字なし絵本」を取り上げ、物語を読み解きながらその魅力をさぐっていく。ウィーズナーの日本デビュー作や日米の文字なし絵本対決などをスライドショーで紹介し、作品に込められた仕掛けや深いメッセージを読み解いていく。
15	レポート作成②　後半 6 回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめ」レポートを作成する。

科目名	彫刻概論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	田丸 稔				
クラス名					

授業目的と到達目標

彫刻芸術は現在非常に多様な素材や表現方法を用いて制作されているが、いわゆる立体表現や技法全般と、彫刻という概念とはどのように棲み分けされるのか、またどのように違うのかについて考察し「彫刻」の概念を理解し定義を試みる。
その上で「彫刻とは何か？」という問いを通して、「彫刻でなければできないこと」、や「同じ立体表現の中での彫刻の特異性、平面での表現との違い」について理解する。

授業概要

既成作品の鑑賞、既成作家の事歴を題材に、様々な彫刻表現の有り様について学ぶ。グループディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、時には簡単な制作体験を交えて、「彫刻とはなにか？」についての理解を試みる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

授業時間外は 1 週間で 1～2 時間程度、当該講義で扱う地域の歴史や文化について予習し、講義で出てきた作家の事歴について復習すること。研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為：捏造、改ざ ん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
レポート課題	50
出席状況や受講態度を鑑みた総合的評価	50

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	彫刻とは何か 新装版: 特質と限界		
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード／宇佐美英治 訳
参考書名2	近代彫刻史		
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード／藤原えりみ 訳
参考書名3	彫刻の美		
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	「彫刻とは何か」について考える１
3	制作体験：彫刻造形の要素、特に量感について
4	彫刻の歴史：古代
5	彫刻の歴史：ルネッサンス期
6	彫刻の歴史：近代（ロダン～ブランクーシ）
7	彫刻の歴史：現代（20 世紀以降）
8	彫刻の歴史：日本の彫刻
9	既成作家：ドナテッロ
10	既成作家：ミケランジェロ
11	既成作家：慶派
12	既成作家：ロダンとその周辺１
13	既成作家：ロダンとその周辺２
14	20 世紀のイタリア
15	まとめ：「彫刻とは何か？」について考える2

科目名	美術論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	加藤　義夫				
クラス名					

授業目的と到達目標

ルネサンスから現在までの約 500 年間の西洋美術の価値観の変遷について紹介します。美術の哲学・思想を知り、自らの美的価値観や世界観を構築する基礎づくりを目的とします。現代アートを取り巻く環境、例えば美術館、ギャラリー、アートフェア、国際芸術祭、アートプロジェクトなどを知り、現代のアートと社会との関係性を自分自身で認識し、自分の言葉で語れることを目的とします。さらに展覧会の企画や展覧会の流れなど、アートマネジメントについて研究し、展覧会の「企画書」をレポートとして提出することを到達目標とします。

授業概要

西洋美術の根幹を成すキリスト教。旧約聖書・新約聖書を知らずして西洋美術は語れません。他方、古代ギリシャ神話は、ルネサンス以降に西洋美術史に刻印された大切な物語です。多様な価値観が生まれる 20 世紀美術においては、アートと社会の関係性を探求します。現代アートの祭典や美術館、ギャラリーのシステムについてアートマネジメントの観点から解説します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

前期は西洋美術史を予習し、後期は教科書「アートマネージメントを学ぶ」を予習してください。授業で学習したことを毎回「まとめ」て記述しておくことで復習とします。興味を持った美術館やギャラリー、アートフェア、国際芸術祭や展覧会は積極的に観に行き、その印象を感想文に書く習慣をつけてください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期レポート課題　キリスト教美術(旧約聖書・新約聖書)の中で好きな作品、影響を受けた作品のをレポートにして提出とてください。	30
,後期レポート課題 「マルセル・デュシャンのレディメイドはアートか否かについて」レポート提出してください。	20
後期「空想美術館構想」をレポート課題として提出してください。	50

教科書

教科書1	「アートマネージメントを学ぶ」ISBN コード　978-4-86463-068-9		
出版社名	武蔵野美術大学出版局	著者名	新見隆・伊東正伸・加藤義夫・金子伸二・山出淳也
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	西洋美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	監修=高階秀爾
参考書名2	20 世紀の美術		
出版社名	美術出版社	著者名	監修=末永照和
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

アートスケープ　http://artscape.jp

特記事項

「美術論」の授業では、適宜にオリジナルプリントを配布します。
教科書「アートマネージメントを学ぶ」は、後期に集中的に使用します。後期のレポート課題に必要な教科書です。前期に後期予習として、教科書を読んでおくことをお薦めします。
さらに教科書は芸大を卒業してからも役に立つ書籍です。

教員実務経験

宝塚市立文化芸術センター館長として 5 年間の実務経験や現代美術ギャラリーのディレクターとして約 11 年間の実務経験のほか、約 30 年間にわたりインディペンデント・キュレーターとして展覧会制作の実務経験を持つ。また一方、美術評論家として「美術手帖」「日本経済新聞」「朝日新聞」に美術評の連載コラムを持つ実務経験を活かして、ルネサンスから現代までの「美術論」の授業を行う。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ガイダンス　シラバスを参照して授業の進め方、成績評価の説明 聖書の物語　ー　旧約聖書と新約聖書の大まかな流れについて
2	西欧世界とキリスト教ーpart1 美術作品にみる旧約聖書の物語　ー　創世記・アダムとイヴ・ノアの箱舟・バベルの塔
3	西欧世界とキリスト教ーpart2 美術作品にみる旧約聖書の物語　ー　モーセの誕生・出エジプト・十戒
4	西欧世界とキリスト教ーpart3 美術作品にみる新約聖書の物語　ー　受胎告知・最後の晩餐
5	西欧世界とキリスト教ーpart4 美術作品にみる新約聖書の物語　ー　磔刑・復活・最後の審判
6	古代ギリシャとルネサンス 再生という名の古典文化復興運動
7	古代ギリシャの神々 ゼウスとオリンポスの神々
8	レオナルド・ダ・ヴィンチの美術理論 万能の天才レオナルドの人生と作品について
9	イタリア・バロックの巨匠　カラヴァッジョ 光と影の劇的表現でバロック絵画の形成に影響を与えたカラヴァッジョについて
10	科学の発明と美術の関係について フェルメールが使った光学機器と写真の発明と美術の関係性について
11	近代芸術の萌芽　独創性への道 新古典主義 VS ロマン主義ー理想美と個性美の対決
12	フランス革命がもたらす美術館のはじまりとコレクション 世界の美術館の基礎となったルーブル美術館ついて
13	万国博覧会とジャポニスム 世絵・琳派などの日本美術が、印象派やアール・ヌーヴォーに影響を与えた歴史
14	ピカソはなぜ、20 世紀を代表する画家なのか? ピカソの秘密を探る
15	ピカソとマティスー破壊と創造 20 世紀最大の巨匠ピカソとマティスの物語

16	シュルレアリスムのサルバドール・ダリの美術理論 ダリの視点から見る巨匠たちの成績表
17	マルセル・デュシャンの美術理論ーレディ・メイドという考え方 男性用小便器をアートに仕立て上げた男の話
18	エコール・ド・パリ、画家モディリアーニの物語「モンパルナスの灯」 第一次世界大戦前後、パリが芸術の中心だった頃の時代
19	アメリカのアンディ・ウォーホルとドイツのヨゼフ・ボイスの美術理論について コピーとオリジナルを考える/社会彫刻と芸術概念の拡張という考え方
20	アートプロジェクト-part1/クリスト&ジャンヌクロード プロジェクトという考え方のソーシャルアート
21	アートプロジェクト-part2/川俣正(ニューヨーク)、大久保英治(徳島)のプロジェクトを紹介 法律をクリアし地域社会や住民を巻き込むアートプロジェクトのプロセス
22	展覧会を知る part1ー国際芸術祭の紹介 ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)、ドクメンタ(ドイツ)について紹介します。
23	展覧会を知る part2ー日本の国際芸術祭の紹介 「越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県)」「瀬戸内国際芸術祭(香川県)」 「横浜トリエンナーレ(神奈川県)」「あいちトリエンナーレ(愛知県)」などを紹介します。
24	展覧会を知る part3ー国際芸術祭の意義と効用 都市のまちづくり、地域社会の活性化、国際文化交流、経済波及効果などについて。
25	ギャラリーのシステムと仕事の内容 企画画廊と貸画廊について解説します。
26	アートフェアのアートマネジメントについて紹介 ギャラリーが中心となるアートフェアとアートマーケットについて、世界のアートフェアと共に ARTOSAKA や ACK(アートコラボレーション京都)を中心に解説します。
27	アートに不可欠なコレクター(パトロン)の存在を紹介 ニューヨークの奇跡のコレクター「ハーブ&ドロシー」の物語
28	企画展の方法と企画書について 展覧会やアートプロジェクトの制作の方法を解説します。
29	アーティストになる方法&アートを続ける方法 アーティストになる方法の紹介。アーティストのセルフマネジメント、セルフブランディング学び、表現者として作品制作を続ける方法を導きだします。 表現者として生き残るための方法を模索します。
30	アートに関係する仕事画家や彫刻家だけがアートに関係する仕事ではありません、さまざまな観点からアートに関係する仕事を紹介します。

科目名	工芸論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬　博文				
クラス名					

授業目的と到達目標
この授業は次の事柄を通して自由な精神と創造性を養うのを目的とする。 前期：芸術と生活の接点に位置する工芸の在り方を考える 後期：民藝的観点と現代工芸的観点から工芸を考える

授業概要
工芸は生活にかかわっていることから当然機能が重んじられる。 しかし工芸作品において、フォルムやテクスチャーは単純に機能から演繹されているのではない。 それではいったい作品成立のための工芸の本質とは何なのか。授業では参考文献や資料を用いてその問題について考える。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
しっかりと授業に出席し、授業での話と参考書等によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。 ノート（背を綴じているもの）がないと平常点を獲得できないので、必ず用意して下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点（授業中のスタンプ獲得数による）	50
テスト(学年末に一回)	50

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	生活造形の美学		
出版社名	光生館	著者名	谷田悦次
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	イントロダクション：工芸の本質をめぐって
2	「生活造形の美学」を参考に生活造形としての工芸を考える
3	「生活造形の美学」を参考に機能主義とは何かを考える
4	機能主義の源流1．：19世紀中頃に現れた機能主義（アーツアンドクラフツなど）について
5	機能主義の源流2．：バウハウスまでの機能主義の発展をめぐって
6	バウハウスにおける機能主義1．：バウハウス宣言（1919）にみる機能主義のあり方
7	バウハウスにおける機能主義2．：バウハウス工房の製品について
8	バウハウスにおける機能主義3．：機能主義と機械生産について（バウハウスの変貌）
9	バウハウスのパラドクス1．：バウハウスの機能主義の成り立ちにおけるパラドクス
10	バウハウスのパラドクス2．：バウハウスに始まる機能と形態の問題の再考察
11	バウハウス以後のデザインについて：機能主義を越えて
12	現代のデザインをめぐって1．：実の透明性（バウハウス）から虚の透明性（ル・コルビュジェ）へ
13	現代のデザインをめぐって2．：虚の透明性の実現としての戦後デザイン
14	19世紀中頃～20世紀後半のデザインの流れにおける機能と形態の問題
15	前期まとめ
16	「生活造形の美学」を参考に意匠について考える
17	「生活造形の美学」を参考に郷土に根ざす工芸を考える
18	民藝運動のはじまり：柳宗悦の生涯、「雑器の美」などにおける民藝の基本的思想
19	民藝運動の展開：「工芸文化」などにみる民藝思想の成熟
20	民藝運動と仏教思想：他力の観点から民藝を考える
21	民藝作家1．：浜田庄司（柳の民藝思想の具体化）
22	民藝作家2．：河井寛次郎（柳の民藝思想からの逸脱）
23	民藝思想に対する批判：人間復興の工芸という観点より民藝を考える
24	民藝運動の功罪について（明治以降の工芸の流れにおける民藝の位置付け）
25	民藝思想の乗り越え1．：富本憲吉の作品（なぜ富本は民藝運動から離脱したのか）
26	民藝思想の乗り越え2．：富本憲吉の思想（富本が考えた概念・設計図なき制作）
27	民藝思想と富本憲吉の思想との比較検討
28	戦後の工芸をめぐって1．：走泥社における富本憲吉の思想の受容
29	戦後の工芸をめぐって2．：1960年代以降の工芸にみる富本憲吉の思想、後期まとめ
30	学年末テスト、授業内容に関する今後の展望

科目名	文様論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 後期	形態	講義		
教員名	齋藤　朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標

ディプロマポリシーにある　学生の創作・表現・研究活動への主体的な取り組みを支える専門的知識と異文化への視野を獲得することを目的とする。文様を手懸りに、広い視野と知識を得て工芸史への理解を深めること、作品を観て考察したことを自身のことばで表現できることを到達目標とする。

授業概要

東洋の工芸に施された文様を中心に取り上げ、その流行や変遷、文様を創造した人々・求めた人々の美意識、込められた意味、異文化間での影響を探る。また、工芸各分野の技術の発展と文様の変化の関係を学ぶ。前半は中国の古代～唐時代の文様、さらに西方に由来する文様が中心となる。後半は異国風文様の和様化、日本独自の文様を取り上げ、近世における西洋との交流にも触れる。作品の細部写真を用いて比較、考察、問いかけをしていく。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

教室で配布予定の次回分の授業資料を講義前に読んでおくこと（約 1 時間）。授業後ミニレポートは当日教室で提出する。フィードバックは次回の授業のはじめに行う。また復習しておくべき要点を指示するので各自学習すること（約 1 時間）。詳細は初回に説明する。授業時に自主学習に役立つように参考図書や作品・展覧会の情報を示す。講義だけではなく、積極的に実作品を観る機会を持ち、自分なりの視点で文様についての考察を深めてほしい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業後ミニレポート課題	50
学期末レポート	40
平常点（授業・課題への取組み、質問への回答）	10

教科書

教科書1	各回教室で授業資料を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	漆芸品の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小松大秀・加藤寛
参考書名2	やきものの鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	矢部良明編
参考書名3	日本・中国の文様事典		
出版社名	視覚デザイン研究所	著者名	早坂優子
参考書名4	染と織の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小笠原小枝
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
美術館の学芸員である教員が、調査や展示で館蔵品を実際に手に取り観察してきた経験を活かして、実見の機会を得た作品などを題材に解説し、作品や展覧会情報も提供していく。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	講義予定と課題・評価について古代日本の文様 世界どの地域でも共通の文様 / 仏教伝来以前の日本の文様 / 我が国固有の文様 / 古墳時代の墳墓の副葬品 / 古代日本の造形の特質
2	古代中国の文様（1）青銅器の文様と変遷 古代の祭祀 / 古代青銅器の特色と技法 / 青銅祭器の役割と文様の変遷 / 西域文様の流入
3	古代中国の文様（2）神仙世界の文様 青銅器の成形技法と装飾技法 / 漢時代の主要な文様 / 墳墓出土の帛画にみる神話伝説の世界 / 銅鏡文様の変遷と神仙の世界
4	唐草文の世界　～文様の伝播と変遷～ 古代文明にあらわれる植物文様 / 唐草文の起源と伝播 / 中国における唐草文の変遷 / 朝鮮半島・日本への伝播
5	楽園への憧れと花鳥文様　～ササン朝ペルシアの文様の東方伝播～ 唐帝国の繁栄とペルシア文化の流入 / ペルシアの金属工芸 / パラダイス（楽園）の思想 / 唐時代の金銀器―技法と文様 / 隋・唐時代の鏡の文様
6	シルクロードと染織品の文様 染織品に見る技術と文様の変遷 / シルクロードによる絹織物と織物技術の伝播 / 法隆寺・正倉院伝来の染織品の文様―唐風から和風へ
7	有職文様・家紋について 装いの変遷 / 上代裂の文様－唐風から和風へ / 有職文様 / 家紋―日本独自の紋章文化
8	漆芸品にみる唐風文様の和様化 漆について / 漆工技法＜素地成形・加飾＞ / 飛鳥・奈良・平安時代の漆工一唐風から和風へ
9	日本の工芸にみる文芸意匠―漆工技術の発達と新たな技法 鎌倉・室町時代の漆工 / 葦手絵 / 日本人と和歌
10	桃山の意匠一漆器を中心に 絵画にみる中世から近世へ / 桃山時代の工芸に共通する意匠 / 高台寺蒔絵 / 南蛮漆器
11	異国への憧れ―日本人と絨毯 近世の日本人と絨毯 / 舶載の染織品 / 陣羽織・祭礼の山鉾懸装品 / 上代の日本人と絨毯 中近東の絨毯文化 / ペルシャ絨毯の文様 / イスラムの装飾意匠
12	やきものと文様（1）日本の古代・中世のやきもの 中国陶磁の影響と国産やきものの発展 / 加飾技法と文様
13	やきものと文様（2）中世から近世へ　　茶の湯とやきもの / 色彩と文様で飾られたやきもの
14	近世の小袖意匠 装いの変遷＜小袖の普及＞ / 小袖意匠の変遷（桃山・江戸前期・江戸中期～後期）
15	琳派と工芸意匠 琳派の登場一伝統様式への挑戦 / 光悦と宗達 / 琳派の大成 / 光琳と乾山 / 光琳意匠の流行と日本人の美意識授業のまとめ

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	宇代　貴文				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の歴史上には数多くの優れた作品があります。授業では日本美術史の流れにしたがい、各時代の作品の造形や意味、歴史的背景など、作品鑑賞の基礎を学びます。到達目標としては、日本美術への理解を深め、実際に作品を見たうえで自らの言葉で説明できるようになることを目指します。

授業概要

授業は講義形式でおこないます。はじめに美術史を概説したうえで、作品を何点か取りあげ、基本的な事柄を説明します。時に歴史的背景にも踏み込んだ説明も行いますが、あくまで作品の様式を理解することに重点をおきます。毎回プロジェクターでスライドを映しながら、様々な作品を紹介し、その表現や技法、制作状況、意味について解説していきます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

授業で紹介した作品について、展覧会に実際に自らの目で見て内容を理解することを勧めます。
※授業は 60%以上出席し、レポートを提出しないと単位を認めることはできません。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常の授業態度	50
レポート（授業課題など）	50

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	美術出版ライブラリー　歴史編　日本美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	
参考書名2	日本の美術　1～545 号		
出版社名	至文堂・ぎょうせい	著者名	
参考書名3	日本美術全集　全 20 巻		
出版社名	小学館	著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験	
寺院学芸員の視点から、美術史だけでなく地域の歴史文化や文化財保護も視野に入れた授業を行う。	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	イントロダクション 縄文・弥生時代（土器・土偶・青銅器）
2	古墳時代 埴輪・副葬品・壁画など　高松塚・キトラ古墳
3	飛鳥・白鳳時代①　仏教公伝と仏教美術の開花 法隆寺釈迦三尊・飛鳥大仏・広隆寺菩薩半跏像など
4	飛鳥・白鳳時代②　聖徳太子信仰と白鳳の美 夢殿救世観音、天寿国繡帳、玉虫厨子、橘夫人念持仏厨子など
5	奈良時代①　南都大寺の興隆 薬師寺（薬師三尊像・東塔）、興福寺（山田寺仏頭・八部衆十大弟子）など
6	奈良時代②　東大寺と正倉院 法華堂不空羂索観音・戒壇院四天王・国家珍宝帳・正倉院工芸品など
7	奈良時代③　鑑真と唐招提寺 唐招提寺（鑑真和上像・本尊廬舎那仏像・木彫群像）など
8	平安時代①　平安遷都　最澄と空海 延暦寺（根本中堂・伝教大師将来目録）　東寺（講堂諸像）など
9	平安時代②　仏教の多様化（密教・神仏習合） 神護寺薬師如来・高雄曼荼羅・向源寺十一面観音・金峯山蔵王権現など
10	平安時代③　摂関期の美術（法華経・浄土信仰） 平等院鳳凰堂・浄瑠璃寺九体阿弥陀・藤原道長金銅経筒など
11	平安時代④　院政期の美術 中尊寺金色堂・仁和寺蒔絵冊子箱・年中行事絵巻など
12	平安時代⑤　平安王朝の装飾 普賢菩薩像（東博）・東寺十二天像・高野山阿弥聖衆来迎図・平家納経など
13	平安時代⑥　平安絵巻物 信貴山縁起・伴大納言絵巻・鳥獣人物戯画など
14	鎌倉・南北朝時代①　鎌倉幕府と武家の文化 似絵と肖像彫刻（重源像・空也上人像・明恵上人像・神護寺三像など）
15	鎌倉・南北朝時代②　運慶と快慶 東大寺南大門金剛力士・願成就院阿弥陀・東大寺僧形八幡神坐像など
16	鎌倉・南北朝時代③　鎌倉絵巻物 北野天神縁起絵巻・一遍聖絵・春日権現験記絵巻など
17	鎌倉・南北朝時代④　中世の信仰と美術（浄土教・神祇） 知恩院早来迎・山越阿弥陀・善光寺阿弥陀・那智滝図・春日曼荼羅など
18	室町時代①　足利将軍家と美術 鹿苑寺足利義満・牧谿瀟湘八景図・伝徽宗桃鳩図・曜変天目茶碗など
19	室町時代②　禅宗の美術・水墨画 明兆達磨図・如拙瓢鯰図・雪舟慧可断臂図・四季山水図など
20	室町時代③　狩野派の興隆（狩野正信・元信） 大徳寺大仙院障壁画・妙心寺霊雲院障壁画・周茂叔愛蓮図など
21	桃山時代①　天下人の造形　桃山時代の城郭 桃山時代の絵師たち（狩野永徳・長谷川等伯・海北友松）唐獅子図屏風（宮内庁）など
22	桃山時代②　永徳の後継者（狩野光信・孝信）勧学院襖（園城寺）・賢聖障子襖（仁和寺）

	近世初期土佐派・近世初期風俗画・絵入り本・社寺参詣曼荼羅など
23	桃山時代③　南蛮の美術　南蛮図屏風（神戸市博）泰西王侯騎馬図（神戸市博） 茶の湯（千利休・古田織部）茶室（待庵）、桃山時代のデザイン、戦とかざりなど
24	江戸時代①　日本美術の熟成　大規模建築の造営（二条城・日光東照宮） 江戸絵画と京狩野（狩野探幽・尚信・山楽・山雪）二条城二の丸御殿障壁画、岩佐又兵衛と風俗画など
25	江戸時代②　近世デザインと琳派（本阿弥光悦・俵屋宗達・尾形光琳） 風神雷神図（建仁寺）・紅白梅図屏風（MAO 美術館）、尾形乾山と江戸陶芸など
26	江戸時代③　浮世絵の誕生（菱川師宣・鳥居清倍）見返り美人図（東博） 江戸の出版文化（嵯峨本）、近世庶民信仰の美術（円空・木喰）、黄檗の美術（萬福寺）など
27	江戸時代④　京都画壇の絵師たち（伊藤若冲・曽我蕭白・円山応挙・長沢芦雪） 動植彩絵（宮内庁）・群仙図（宮内庁）・七難七福図巻（相国寺）、江戸の文人画（池大雅・与謝蕪村）など
28	江戸時代⑤　中国・西洋画の影響（南蘋派・秋田蘭画・司馬江漢・亜欧堂田善）柳汀双禽図（琵琶文）不忍池図（秋田近美）異国風景人物図（神戸市博）、浮世絵の成熟（葛飾北斎・歌川広重）富嶽三十六景・東海道五十三次、江戸絵画表現の多様など
29	江戸時代⑥　江戸琳派（酒井抱一・鈴木其一）夏秋草図屏風（東博）、文人画（浦上玉堂・田能村竹田・谷文晁）東雲師雪図（川端記念館）公余探勝図巻（東博）、江戸後期の工芸・建築など
30	近代　岡倉天心と日本美術鮭（東京芸大）・悲母観音（東京芸大）・老猿（東博）など

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	五十嵐　公一				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本では多くの優れた作品が作られてきました。授業ではそれらの作品を時代の流れに沿って紹介してゆきます。日本美術史は実に面白い学問です。その面白さを伝えること、そして興味を持ってもらうことが授業目的であり到達目標です。

授業概要

授業では、先ず作品が生まれた時代背景を説明します。それを踏まえ、パワーポイントの画像を見てもらいながら多くの作品を紹介してゆきます。作品がどのような状況で生まれ、どのような意味を持っているのかを知ってもらいたいと思います。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

毎回の授業の初めに、出席カードを配ります（出席カードは授業終了後に回収します）。そして授業の終わりに、簡単な課題を出します。その課題を指定された期限までに UNIPA で提出できたら授業に出席したと認めます。
2/3 以上の授業に出席し、更に年度末レポートを提出しないと単位が取得できません。
楽に単位が取得できるわけではありません。
注意してください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
毎回の授業で示した課題	60
年度末のレポート	40

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	美術出版ライブラリー　歴史篇　日本美術史		
出版社名	美術出版社	著者名	
参考書名2	天皇の美術史　全６巻		
出版社名	吉川弘文館	著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	01　縄文・弥生時代 ・火焔型土器、遮光器土偶、三内丸山遺跡など
2	02　古墳時代 ・箸墓古墳、高松塚古墳、キトラ古墳など
3	03　飛鳥・白鳳時代 ・釈迦三尊像（法隆寺）、救世観音像（法隆寺）、弥勒菩薩像（野中寺）など
4	04　奈良時代：薬師寺と興福寺 ・薬師寺東塔、薬師如来像（薬師寺）、阿修羅像（興福寺）など
5	05　奈良時代：東大寺と正倉院 ・不空羂索観音像（東大寺）、戒壇院四天王像（東大寺）、鳥毛立女屏風（正倉院）など
6	06　奈良時代：鑑真来日と唐招提寺 ・鑑真和上像（唐招提寺）、唐招提寺金堂、唐招提寺諸像など
7	07　平安時代：最澄と空海 ・東寺講堂諸像、灌頂歴名（神護寺）、如意輪観音（観心寺）など
8	08　平安時代：摂関政治と美術 ・藤原道長金銅経筒（金峯神社）、平等院鳳凰堂、九体阿弥陀如来像（浄瑠璃寺）など
9	09　平安時代：院政期の美術　1 ・薬師如来像（仁和寺）、普賢菩薩像（大倉集古館）、阿弥陀三尊像（長岳寺）など
10	10　平安時代：院政期の美術　2 ・十二天像（京都国立博物館）、普賢菩薩像（東京国立博物館）、平家納経（厳島神社）など
11	11　平安時代：絵巻 ・源氏物語絵巻（徳川美術館ほか）、伴大納言絵巻（出光美術館）、鳥獣人物戯画（高山寺）など
12	12　鎌倉・南北朝時代：運慶と快慶 ・大日如来像（円成寺）、金剛力士像（東大寺）、阿弥陀三尊像（浄土寺）など
13	13　神護寺三像の問題 ・伝源頼朝像・伝平重盛像・伝藤原光能像（神護寺）
14	14　鎌倉・南北朝時代：天皇と武家　1 ・後鳥羽天皇像（水無瀬神宮）、随身庭騎絵巻（大倉集古館）、花園法皇像（長福寺）など
15	15　鎌倉・南北朝時代：天皇と武家　2 ・伊勢物語絵巻（久保惣記念美術館）、春日権現縁起巻（皇居三の丸尚蔵館）など
16	16　室町時代：足利将軍家と美術 ・足利義満像（鹿苑寺）、瓢鮎図（退蔵院）、融通念仏縁起絵巻（禅林寺）など
17	17　室町時代：雪舟等揚 ・破墨山水図（東京国立博物館）、四季山水図（毛利博物館）、天橋立図（京都国立博物館）など
18	18　室町時代：狩野派の登場 ・周茂叔愛蓮図（九州国立博物館）、大徳寺大仙院障壁画、四季花鳥図屏風（白鶴美術館）など
19	19　安土桃山時代：狩野永徳と長谷川等伯 ・織田信長像（大徳寺）、唐獅子図屏風（皇居三の丸尚蔵館）、松林図屏風（東京国立博物館）など
20	20　江戸時代：豊臣から徳川へ　1

	・二条城障壁画、名古屋城障壁画、四季松図屏風（大徳寺）など
21	21　江戸時代：豊臣から徳川へ　2 ・龍虎図屏風（妙心寺）、妙心寺天球院障壁画、雪汀水禽図屏風など
22	22　江戸時代：琳派　1 ・風神雷神図屏風（建仁寺）、蓮池水禽図（京都国立博物館）、紅白梅図屏風（MOA 美術館）など
23	23　江戸時代：琳派　2 ・夏秋草図屏風（東京国立博物館）、夏秋渓流図屏風（根津美術館）など
24	24　江戸時代：浮世絵　1 ・鈴木春信、喜多川歌麿、東洲斎写楽ほか
25	25　江戸時代：浮世絵　2 ・葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳ほか
26	26　江戸時代：18世紀の京都　1 ・雪松図屏風（三井記念美術館）、大乗寺障壁画、無量寺障壁画など
27	27　江戸時代：18世紀後半の京都　2 ・動植綵絵（皇居三の丸尚蔵館）、仙人掌群鶏図襖（西福寺）、雲龍図（ボストン美術館）など
28	28　江戸時代：京都御所 ・京都御所障壁画など
29	29　明治時代：日本画と洋画 ・鮭（東京藝術大学）、無我（東京国立博物館）、湖畔（黒田記念館）など
30	30　大正時代以降 ・序の舞（東京藝術大学）、立てる像（神奈川県立近代美術館）など

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	河田　昌之				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本美術を知っていますか?一般に、美術は、自然や生活、政治経 済や思想、または海外文化の影響などを受けて形成されます。日本 の美術も例外ではなく、独自の美意識が作品に投影されています。 具体的な作品をとおして、造形の意義や特徴を学び、作品解説がで きるほど日本の美術が好きになることを目指します。

授業概要

過去に製作され現在も観ることができる日本美術の作品を取り上げ、パワーポイントの画像を提示しながら、講義します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

講義で取り上げた作品を、できるだけ展覧会に出向いて観賞することを勧めます。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
学期末試験	50
レポート(授業中の課題など)	30
平常の授業態度（出席状況など）	20

教科書

教科書1	使用しません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	日本美術史入門		
出版社名	平凡社	著者名	河野元昭監修
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	日本美術史を学ぶにあたっての基礎知識や時代区分など
2	縄文時代の美術・・・生活環境、縄文式土器や土偶などの祭祀と美術について
3	弥生時代の美術・・・生活環境、弥生式土器や青銅器など、ムラの機能と美術について
4	古墳時代の美術・・・中国との関わり、埴輪、副葬品、古墳壁画など
5	飛鳥時代の美術 1・・・仏教伝来、仏像、伽藍、寺院など、仏教美術について美術につて
6	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
7	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
8	奈良時代後期(天平)の美術 1・・・法隆寺、仏像など、仏教美術について
9	奈良時代後期(天平)の美術 2・・・正倉院の仏教美術や工芸品を中心に
10	平安時代前期(貞観)の美術 1・・・空海と最澄、真言宗と天台宗など、密教美術について
11	平安時代前期(貞観)の美術 2・・・三筆と三蹟(さんせき)など、書について
12	平安時代後期(藤原)の美術 1・・・浄土教、」道長と紫式部など、王朝の美術工芸について
13	平安時代後期(藤原)の美術 2・・・源氏物語絵巻、伴大納言絵巻、鳥獣人物戯画など
14	鎌倉時代の美術 1・・・源頼朝と鎌倉、武家文化、似絵(にせえ)など、美術の新生面
15	鎌倉時代の美術 2・・・運慶、快慶、寺院建築など、仏教美術について
16	鎌倉時代の美術 3・・・藤原定家と古典、物語絵、書など、文芸と美術について
17	室町時代の美術 1・・・足利将軍家と中国美術コレクションなど、外来文化の需要について
18	室町時代の美術 2・・・禅宗、雪舟、水墨画、墨蹟(ぼくせき)など、禅林の美術について
19	室町時代の美術 3・・・お伽草子絵など、庶民の美術について
20	桃山時代の美術 1・・・信長、秀吉と戦国武将の美意識、城郭建築など、武士と美術に
21	桃山時代の美術 2・・・千利休、茶の湯など、茶の美術について
22	桃山時代の美術 3・・・金箔と障壁画や屏風など、狩野派と町絵師について
23	江戸時代前期の美術 1・・・俵屋宗達と本阿弥光悦など、装飾と書のコラボの美について
24	江戸時代前期の美術 2・・・南蛮美術と文化など、異国の文物への関心と流行について
25	江戸時代前期の美術 3・・・四条河原遊楽図、歌舞伎図など初期風俗画について
26	江戸時代中期の美術 1・・・尾形光琳と乾山など、琳派の美術について
27	江戸時代中期の美術 2・・・池大雅、与謝蕪村などの文人画と円山応挙などの写生画派について
28	江戸時代後期の美術 1・・・鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重など、浮世絵について
29	江戸時代後期の美術 2・・・長沢蘆雪、伊藤若冲、曽我蕭白など、異風の絵師たちについて
30	近代の美術・・・明治期以降の美術の動向

科目名	東洋美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	田林 啓				
クラス名					

授業目的と到達目標

東洋美術史へ関心を持ち、東洋美術に関する具体的なイメージを持つこと。

授業概要

【対面授業】各回で一つの作品を中心に話を進める。中国美術史を主とし、中国美術と他地域の美術との関係性を読み解いていく。授業は、東洋美術史の研究方法紹介、各地域の美術作品の特性の把握、各時代における中国美術の特性の把握、中国美術と他地域作品との関連性というように大きく4 つのテーマを設けて進める。これらを踏まえて後半では日本の美術作品も扱っていく。扱う作品は、教員が学芸員として実際に展示した或いは自らが研究したものを主軸とする。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

・授業中の私語は禁じます。・学期末(前期・後期ともに)の最終授業日に筆記試験を実施します。
単位取得には筆記試験の受験が必須条件です。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期筆記試験	40
後期筆記試験	40
受講態度	20

教科書

教科書1	毎回の授業で配布するプリント		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験	
美術館に学芸員として勤務。	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	東洋美術史の対象地域、研究方法及び授業の進め方、評価方法についての説明
2	シルクロードとは　中国と他地域との影響関係（1） シルクロード上の各地域及び作品についての概要
3	各地の石窟（洞窟）寺院(1)　中国と他地域との影響関係（2） 中国・雲岡石窟、龍門石窟、敦煌莫高窟についての概要
4	各地の石窟（洞窟）寺院(2)　中国と他地域との影響関係（3） 西域・キジル石窟、インド・アジャンター石窟についての概要
5	秦・兵馬俑　中国美術史概論（1） 兵馬俑を主に取り上げて、中国の戦国、秦時代の美術についてみていきます
6	昇仙図（天界に昇る様子を描く絵画、馬王堆帛画）　中国美術史概論（2） 昇仙図を主に取り上げて、中国の前漢時代の美術についてみていきます
7	博山炉（仙人の世界を表す香炉）　中国美術史概論（3） 博山炉を主に取り上げて、中国の後漢時代の美術についてみていきます
8	洛神賦図　中国美術史概論（4） 洛神賦図を主に取り上げて、中国の魏晋時代の美術についてみていきます
9	雲岡石窟（洞窟）　中国美術史概論（5） 雲岡石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代前半の美術についてみていきます
10	龍門石窟（洞窟）　中国美術史概論（6） 龍門石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代後半の美術についてみていきます
11	潼関税村壁画墓　中国美術史概論（7） 潼関税村壁画墓を主に取り上げて、中国の隋時代の美術についてみていきます
12	白鶴美術館所蔵の銀器　中国美術史概論（8） 白鶴美術館所蔵の銀器を主に取り上げて、中国の唐時代前半の美術についてみていきます
13	法門寺地下宮出土の美術　中国美術史概論（9） 法門寺地下宮出土の美術を主に取り上げて、中国の唐時代後半の美術についてみていきます
14	清凉寺蔵釈迦如来像　中国美術史概論（10） 清凉寺蔵釈迦如来像を主に取り上げて、中国の北宋時代の美術についてみていきます
15	大徳寺他蔵五百羅漢図　中国美術史概論（11） 大徳寺他蔵五百羅漢図を主に取り上げて、中国の南宋時代の美術についてみていきます
16	敦煌莫高窟の美術（1）　中国の美術各論（1） 世界遺産敦煌莫高窟の主な洞窟を取り上げて、莫高窟について詳しくみていきます
17	敦煌莫高窟の美術（2）　中国の美術各論（2） 世界遺産敦煌莫高窟から発見された主な作品を取り上げて、敦煌の美術について詳しくみていきます
18	法隆寺の至宝①　玉虫厨子　東洋美術と日本美術（1） 法隆寺蔵の玉虫厨子を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
19	法隆寺の至宝②　釈迦三尊像　東洋美術と日本美術（2） 法隆寺蔵の釈迦三尊像を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
20	聖徳太子の絵画①　聖徳太子絵伝　東洋美術と日本美術（3） 聖徳太子絵伝を主に取り上げて、説話図における東洋美術との影響関係についてみていきます
21	聖徳太子の絵画②　聖徳太子勝鬘経講讃図　東洋美術と日本美術（4）

	勝鬘経講讃図を主に取り上げて、仏画における東洋美術との影響関係についてみていきます
22	東大寺戒壇院四天王像　東洋美術と日本美術（5） 戒壇院四天王像を主に取り上げて、塑像における東洋美術との影響関係についてみていきます
23	薬師寺薬師三尊像　東洋美術と日本美術（6） 薬師寺薬師三尊像を主に取り上げて、銅像における東洋美術との影響関係についてみていきます
24	正倉院宝物　東洋美術と日本美術（7） 正倉院宝物を主に取り上げて、工芸品における東洋美術との影響関係についてみていきます
25	興福寺阿修羅像　東洋美術と日本美術（8） 興福寺阿修羅像を主に取り上げて、乾漆像における東洋美術との影響関係についてみていきます
26	当麻曼荼羅　東洋美術と日本美術（9） 当麻曼荼羅を主に取り上げて、浄土図における日本美術と東洋美術との影響関係についてみていきます
27	東寺立体曼荼羅（密教仏像群）　東洋美術と日本美術（10） 東寺立体曼荼羅を主に取り上げて、密教美術における東洋美術との影響関係についてみていきます
28	平等院鳳凰堂の堂内装飾（荘厳具）　東洋美術と日本美術（11） 平等院鳳凰堂の堂内装飾を主に取り上げて、荘厳具における東洋美術との影響関係についてみていきます
29	東大寺南大門の力士像　東洋美術と日本美術（12） 東大寺南大門の力士像を主に取り上げて、力士表現や木像における東洋美術との影響関係についてみていきます
30	総まとめ

科目名	デザイン史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本　雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リブレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史的変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。

授業概要

【対面授業】デザインとは何かについて、まず（再）問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」（本、図版、モノ、インターネット、まち、等々）へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
期末テスト（筆記）	90
平常点	10

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	世界デザイン史		
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか
参考書名2	デザイン史入門		
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著　藪亨訳
参考書名3	デザインの小さな哲学		
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルッサー著　瀧本雅志訳
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	「イントロダクション：デザインとは何か？」：「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、（再）問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い（の有無）についても、考察する。
2	「近代デザイン前史」：産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。
3	「産業革命と万国博覧会」：技術の発達が、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」：ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」：アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」：19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマール、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」：フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリ・ビアズリー、エミール・ガレ、テイファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」：アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向（ドイツでのアール・ヌーヴォ−）について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」：過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」：帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」：トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」：デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。

13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」：デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。
14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」：革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを辿ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」：アール・デコとは、1925 年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが 1920 年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」：左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に 19 世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ＋前期の復習テスト」：後期 2 週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期 3 週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」：インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルと MoMA」：1929 年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象とした NY 近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932 年に開催された「近代建築：国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50～60 年代イタリアとドイツのデザイン」：第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後 20 年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940 年代末以降の「グーテ・フォルム」の概念や 1953 年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」：50 年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィンギング・ロンドン」：60 年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえをもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950 年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。
23	「60 年代のパリ・ファッション」：スウィンギング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60 年代のサウンドデザイン」：60 年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして 60 年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」：建築家の設計＝デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示しうる。そうした考えのアンビルトの思想が、60 年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチューリ、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBA とクラシカル・エレガンス」：近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60 年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランド BIBA のデザインを顧みながら、考察する。

27	「アンチ・デザイン」:70 年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90 年代前半には、汚いプアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。
28	「北欧デザインの可能性」:デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70 年代以降の建築デザイン」:70 年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや襞建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなるデザイン概念」:、グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？　デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	工芸史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	東野　眞紀				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の工芸について、様々な素材による美について、歴史をたどり考える。
工芸を考えることによって、日本文化の特徴を探っていく。
総合文化である茶の湯の美を理解することを通じて、日本文化および日本の美意識を学び、様々な分野に興味を広げ、工芸について多面的に理解できることを本講義の目標とする。

授業概要

日本の工芸について、様々なテーマについて講義する。工芸を通じて、日本の文化について考える。
工芸作品について、時代背景について、多角的にとらえるために、映像や映画も取り入れる。
また、映像を見ての感想を求める。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

博物館や美術館や展覧会など、作品を見る機会を積極的に作ること。また、図書館を積極的に利用すること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
出席して授業に取り組み、小レポートを作成する	50
前期の学期末レポートと後期の学期末レポートを指定する日時までに必ず提出すること	50

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	必要な資料は印刷して配布する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	『わかりやすい茶の湯の文化』		
出版社名	淡交社	著者名	谷　晃
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

レポートの作成方法、図書館の利用方法についてレクチャーする。 学期末に各自レポートの発表を行う。
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	日本の文化と工芸 日本の文化のｔ特徴と工芸について
2	「工芸論」のレポート作成のための図書館利用について
3	工芸の種類と歴史について
4	日本の工芸と文化に関する映画を見て考察する
5	日本の文化と工芸に関する映画を見て考察する
6	工芸の歴史
7	工芸の歴史
8	工芸の素材・色彩・技術
9	染色と織物について
10	陶磁器について
11	漆について
12	金属工芸について
13	木工・竹工品について
14	ガラスについて
15	レポート発表（1200 字以上で、事前準備を要する）
16	現代と工芸について
17	日本美術・芸道・工芸について
18	日本の文化と工芸に関する映画を見て考察する
19	日本の文化と工芸に関する映画を見て考察する
20	茶の湯の文化について
21	茶の湯の建築について
22	コンセプトアートとしての茶の湯
23	茶の湯の実際
24	茶の湯の実際
25	芸道としての茶の湯
26	工芸に関する動画を見て考察する
27	工芸に関する動画を見て考察する
28	これからの工芸と世界における日本の工芸
29	各分野・テーマごとにレポートについて議論する
30	レポート発表（1200 字以上で事前準備を要する）

科目名	美術特論Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬　博文				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業は次の事柄を通して自由な精神と創造性を養うのを目的とする。前期：アンフォルム（不定形）の観点から現代美術を考える後期：徹底操作／二重の転倒の観点から美術作品を考える

授業概要

現代美術は単に見えるものを問題としているのではなく、見えるもののリアリティが成立するときに忘却されてしまう何かを問題にしていると言える。それは見えるものの身体であるが、見えないものである。
しかしその見えないものは見えるものを通してしか提示しえないところに大きな困難があるだろう。又そこに面白さもある。授業ではこうした観点から現代美術を理論的に考える。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

しっかりと授業に出席し、授業での話と教科書によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。
教科書がないと受講に支障が出る可能性がありますので、必ず購入しておいて下さい。またノート（背を綴じているもの）がないと平常点を獲得できないので、必ず用意して下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点（授業中のスタンプ獲得数による）	50
テスト(学年末に一回）	50

教科書

教科書1	造形原理		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	高瀬博文
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	イントロダクション：なぜ美術が存在するのか
2	アンフォルムとは何か（ジョルジュ・バタイユ）
3	アンフォルムと水平性1.古典美術～垂直性 vs.現代美術～水平性
4	アンフォルムと水平性2. ジャクソン・ポロックのアクションペインティング
5	アンフォルムと水平性3. ポロックによる無意識の表現
6	アンフォルムと水平性4. ポロック以降の水平性の表現（ウォーホルなど）
7	アンフォルムと視線1. 視線とは何か（対象 a としての視線）
8	アンフォルムと視線2. シンディ・シャーマンの作品における視線の現れ
9	アンフォルムと水平性3. エドゥワール・マネ、フリードリッヒ・ターナーによる視線の表現
10	アンフォルムと水平性4. 視線を問題化することの意味
11	アンフォルムと無意識1. 無意識の作用とはなにか
12	アンフォルムと無意識2. 無意識の観点から見たマルセル・デュシャンの芸術史的意味
13	アンフォルムと無意識3. デュシャンの「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも」
14	アンフォルムと無意識4. その他の作家における無意識の問題化をめぐって
15	前期まとめ
16	ジークムント・フロイトの考える強迫反復と徹底操作
17	「残酷な神が支配する」（萩尾望都）などにみる強迫反復と徹底操作
18	徹底操作としての美術作品の制作
19	絵画におけるエネルギー解放論的観点 vs.絵画における徹底操作
20	文学作品に見られる徹底操作をめぐって（ステファーヌ・マラルメ）
21	イマニュエル・カントの美学思想に現れた徹底操作1.
22	イマニュエル・カントの美学思想に現れた徹底操作2.
23	荒川修作の作品における徹底操作1.（「意味のメカニズム」）
24	荒川修作の作品における徹底操作2.（「I のための習作」など）
25	バーネット・ニューマンにみられる徹底操作
26	フランシス・ベーコンにおける徹底操作
27	ダニエル・ビュランにみられる徹底操作
28	美術作品の徹底操作＝二重の転倒1. 二重の転倒とは何か
29	美術作品の徹底操作＝二重の転倒2. 二重の転倒がなぜ必要なのか、後期まとめ
30	この一年間の授業内容に関する今後の展望

科目名	美術特論Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	河田　昌之				
クラス名					

授業目的と到達目標
独自の美を形成している日本美術の特質を講義します。作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。

授業概要
日本の美術の名作を順次取り上げ、パワーポイントを併用しながら講義します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
展覧会等で実際の作品をできるだけたくさん観ることを勧めます。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
学期末試験	50
レポート(平常課題)	30
平常の授業態度（出席状況など）	20

教科書

教科書1	使用しません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

登録博物館の学芸員として、約 37 年間を展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネージメント分野にも携わり、現在も

それを継続しています。こうした経験を基にして、美術品に関する具体的な事例を提示しながら、実社会で応用できる「生きた情報」を盛り込んで講義します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	平安時代の美術(1)やまと絵
2	平安時代の美術(2)やまと絵
3	平安時代の美術(3)やまと絵
4	平安時代の美術(4)仏画
5	平安時代の美術(5)仏画
6	平安時代の美術(6)料紙装飾
7	平安時代の美術(7)料紙装飾
8	鎌倉時代の美術(1)似絵
9	鎌倉時代の美術(2)似絵
10	鎌倉時代の美術(3)似絵
11	鎌倉時代の美術(4)やまと絵
12	鎌倉時代の美術(5)やまと絵
13	鎌倉時代の美術(6)その他
14	鎌倉時代の美術(7)その他
15	室町時代の美術(1)水墨画
16	室町時代の美術(2)水墨画
17	室町時代の美術(3)水墨画
18	室町時代の美術(4)水墨画
19	室町時代の美術(5)墨蹟
20	室町時代の美術(6)やまと絵
21	室町時代の美術(7)やまと絵
22	江戸時代の美術(1)風俗画　洛中洛外図
23	江戸時代の美術(2)風俗画　初期洋風画
24	江戸時代の美術(3)風俗画　その他
25	江戸時代の美術(4)装飾画派　俵屋宗達
26	江戸時代の美術(5)琳派１ 尾形光琳
27	江戸時代の美術(6)琳派２ 酒井抱一
28	江戸時代の美術(7)文人画
29	江戸時代の美術(8)円山・四条派
30	江戸時代の美術(9)浮世絵版画

科目名	美術特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井　元章				
クラス名					

授業目的と到達目標

建学の精神の国際的視野に立って、西洋美術作品の鑑賞を通じ、ルネサンス期ヴェネツィア美術を概観する。前期はその流れを理解し、後期はデヴィッド・ロザンド著『ヴェネツィア神話』を読みながら、美術と政治の関係に関する知識を深める。

授業概要

前期は主に 15・16 世紀のヴェネツィア美術の流れを、それぞれの作品分析を行いながら、概観する。後期は『ヴェネツィア神話』を輪読する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

一般的な世界史の基礎知識を持っていることが望ましいので、高校の教科書を再読するか、『もういちど読む山川世界史』などを使って予め勉強しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
学年末試験	100

教科書

教科書1	『ヴェネツィア神話　ある国家の図像化』		
出版社名	三元社	著者名	デヴィッド・ロザンド
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	新装版　西洋美術解読事典（絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい）		
出版社名	ジェイムズ・ホール	著者名	河出書房新社
参考書名2	小学館世界美術大全集		
出版社名	小学館	著者名	
参考書名3	西洋絵画の主題物語　Ⅰ聖書編　Ⅱ神話編（絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい）		
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	「オリエンテーション 1」 14 世紀のヴェネツィア美術
2	15 世紀前半のヴェネツィア絵画 1
3	15 世紀前半のヴェネツィア絵画 2
4	15 世紀後半のヴェネツィア絵画 1
5	15 世紀後半のヴェネツィア絵画 2
6	15 世紀前半のヴェネツィア彫刻
7	15 世紀後半のヴェネツィア彫刻
8	16 世紀のヴェネツィア絵画　ジョルジョーネ
9	16 世紀のヴェネツィア絵画　ティツィアーノ
10	16 世紀のヴェネツィア絵画　ヴェロネーゼ
11	16 世紀のヴェネツィア絵画　パルマ・イル・ジョーヴァネ
12	16 世紀のヴェネツィア彫刻
13	16 世紀のヴェネツィア建築　パッラーディオ
14	まとめ 1
15	まとめ 2
16	『ヴェネツィア神話』解説
17	『ヴェネツィア神話』序説
18	『ヴェネツィア神話』第一章 1
19	『ヴェネツィア神話』第一章 2
20	『ヴェネツィア神話』第二章 1
21	『ヴェネツィア神話』第二章 2
22	『ヴェネツィア神話』第三章 1
23	『ヴェネツィア神話』第三章2
24	『ヴェネツィア神話』第四章1
25	『ヴェネツィア神話』第四章 2
26	ヴェネツィア共和国と政治 1
27	「ヴェネツィア共和国と政治 2
28	まとめ 1
29	まとめ2
30	授業中試験

科目名	工芸特論Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	山中 俊広				
クラス名					

授業目的と到達目標

工芸をベースに表現するアーティストの活動範囲は、近年ますます広がりを見せている。技術・素材の扱いに日本的な思考が反映されている芸術領域として注目を集め、その魅力を国内外へ発信する様々な動きが見られると同時に、現代アート（現代美術）など他領域への活動の場の展開が顕著である。
本授業では、現在の工芸の定義や枠組みを周辺の芸術領域との関係性から考察し、工芸系のアーティストとしての活動に関わる様々な環境などにも触れて、工芸の領域を多角的に捉え、現代の工芸のあり方について論考していくことを目的とする。
近い将来に工芸系のアーティストとして活動する際に必要と思われる知識やスキルを、本授業の中で幅広く提供することで、各々の将来像に応じた視点や思考を自らで見出し、深めていけるようになることを目標とする。
本授業は、ディプロマポリシーにある「工芸作家の育成」に関連している。

授業概要

［前期］主に講義形式の授業で構成する。アーティストとして制作活動を展開していくための基礎知識として、工芸の領域についての様々な視点での捉え方、活動の選択肢を広げるための実践例やその思考、活動環境の多様性について解説する。
［後期］グループワークによる実習と講義形式を併用した授業とする。作品発表の活動の幅を広げるために、グループ展の企画を考えるワークショップをおこない、自らの作品および制作テーマについての理解を、他者とのコミュニケーションを介して深めることを目指す。また、展覧会を作る専門の職能であるキュレーターやアートマネジメントの仕事にも触れて、アーティストのキャリアをサポートする役割の必要性についても解説する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

講義形式の授業では、スライドで授業のレジュメ、参考の画像や映像を映して説明・解説をおこなう。なお、レジュメの配布はおこなわない。各自で必要な知識や情報の部分を書き取る・記録する習慣を身に付けること。（随時資料の配布は有り）
普段から美術館やギャラリーなどの展覧会に足を運び、工芸に限らず様々な芸術領域の作品や展示に触れることを推奨する。また授業で紹介・解説する様々なコンテンツを、自らの作品や表現テーマと重ねながら、自らにとって工芸の諸要素はどんな比重で影響を与えていて、どのようなバランスが理想なのかを、随時考える機会にしてもらいたい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業中の小レポート、授業に取り組む姿勢	30
前期末レポート	30
後期グループワークの取り組み	40

教科書

教科書1	特になし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	21 世紀は工芸がおもしろい

出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹（編）
参考書名２	工芸未来派：アート化する新しい工芸		
出版社名	六耀社	著者名	秋元雄史
参考書名３	現代美術史日本篇　1945-2014		
出版社名	アートダイバー	著者名	中ザワヒデキ
参考書名４	GO FOR KOGEI 2024 くらしと工芸、アートにおける哲学的なもの（カタログ）		
出版社名	認定 NPO 法人趣都金澤	著者名	
参考書名５	{アートと経済社会について考える研究会　報告書,https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/art_economic/20230704_report.html}		
出版社名		著者名	アートと経済社会について考える研究会、経済産業省

参考 URL

{the three konohana,http://thethree.net/}

特記事項

教員実務経験

これまでにギャラリスト、アートプロジェクトのディレクター／キュレーター、学芸員として、幅広くアートの企画・運営に幅広く携わり、様々な分野のアーティストと協働してきた経験を活かし、現代の工芸を幅広い視野で理解するための考え方を指導する。
{教員のプロフィール,https://thethree.net/artistsdirectors/192/}

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	担当教員の自己紹介、前期ガイダンス
2	アート（芸術）のカテゴリーを考える：アートの中にある「工芸」
3	工芸のカテゴリーを考える１：工芸のカテゴリーの成り立ちとその歴史
4	工芸のカテゴリーを考える２：本学科の４つの領域とその他の工芸領域
5	作品を作るということ１：技術／素材と向き合う
6	作品を作るということ２：自分自身と向き合う
7	作品を作るということ３：社会／日常と向き合う
8	工芸とアートの境界を考える１：日本的／伝統的な「工芸」
9	工芸とアートの境界を考える２：「現代美術・アート」と「工芸」の接点
10	工芸とアートの境界を考える３：世界・海外の「現代工芸」の捉え方
11	展覧会鑑賞（大阪芸術大学博物館の所蔵品展）※実施回が変わる場合があります
12	作品発表の環境１：ギャラリー、アートフェア、デパート
13	作品発表の環境２：美術館、アートセンター
14	作品発表の環境３：芸術祭、アートプロジェクト
15	前期のまとめ
16	後期ガイダンス、前期末課題のフィードバック
17	アーティストのキャリア構築のために１：評価の仕組み
18	アーティストのキャリア構築のために２：展覧会を作ること
19	グループワーク「グループ展をつくる」1：グループメンバーの思考・関心を知る
20	グループワーク「グループ展をつくる」2：グループメンバーの思考・関心を整理する
21	グループワーク「グループ展をつくる」3：プレゼンテーション
22	グループワーク「グループ展をつくる」4：展示計画、展覧会テーマを考える１

23	グループワーク「グループ展をつくる」5：展示計画、展覧会テーマを考える２	
24	グループワーク「グループ展をつくる」6：プレゼンテーション	
25	グループワーク「グループ展をつくる」7：プレゼンテーション、総括	
26	アートマネジメントとキュレーション 1：工芸に関わるもう一つの選択肢	
27	アートマネジメントとキュレーション 2：アートマネジメントの役割と仕事	
28	アートマネジメントとキュレーション 3：キュレーションの役割と仕事	
29	アーティストとしての活動を継続するために：20 代・若手のキャリア作り	
30	後期・本授業のまとめ	

科目名	工芸特論Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	藤田　浩明				
クラス名					

授業目的と到達目標

これまでの文化財に関する研究成果をもとに、「つくる」・「さぐる」・「まもり、つたえる」ための知識と手法を実例を通して身につけることを目的とし、「歴史」・「科学」・「文化財」という観点から、作品制作へのアプローチを学ぶ。

授業概要

対面授業。
1. 古代から現代に至る各種材料を用いた工芸品の歴史や技術に関わる講義
2. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財調査の手法や研究成果に関する講義
3. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財保存の実際についての講義と体験
担当教員はおもに埋蔵文化財の保存処理、修復に携わるとともに、さまざまな材質で製作された博物館・美術館資料等の調査や保存もおこなってきた。
文化財保存科学分野では様々な資料･材質に対して特化した専門家がその任に当たっている。
この授業では担当教員だけでなく、各分野の最前線で活躍している作家や保存科学者、修復家を招いて講義や体験も行なう。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

・前期、後期ともに 3 分の 2 以上の出席必須。
・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。
・授業中の PC やタブレット端末等電子機器の使用、撮影、録音は禁止。使用の必要がある場合は事前に申し出ること。
・配布資料や画像等の扱い（2 次加工や他者への公表など）に高い意識を持つこと。
上記の事項を守り、円滑な授業の進行に協力してください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期　授業への参加態度（毎回のコメントシート含む）	30
前期末　レポート	20
後期　授業への参加態度（毎回のコメントシート含む）	30
後期末　レポート	20

教科書

教科書1	必要に応じて資料を配付		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	トレハロースを用いた文化財保存の研究と実践		
出版社名	三恵社	著者名	伊藤幸司
参考書名2	博物館資料保存論　第2版		
出版社名	講談社	著者名	石崎武志
参考書名3	博物館資料保存論		
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	日高真吾
参考書名4	文化財をしらべる・まもる・いかす -国立文化財機構 保存・修復の最前線-		
出版社名	アグネ技術センター	著者名	早川泰弘・高妻洋成・建石徹
参考書名5	文化財の保存と修復を学ぶ		

出版社名	藝術学舎	著者名	岡田文男

参考 URL
{大阪市立自然史博物館,https://omnh.jp/#gsc.tab=0}

特記事項
先人の創作技術を知り過去の文化を未来に受け継ぐことは、私たちが果たすべき重要な役割のひとつです。それに伴って、美術品･工芸品･文化財を科学的に調査することで材料を知り、その技法を読み解くことは現代の表現者である皆さんにも有用な情報です。最新の調査研究の技術や成果について講義します。

教員実務経験
大阪市立自然史博物館保存科学担当主任学芸員の教員が、博物館現場での資料保存業務経験を活かして、作品保存の考え方や具体的な方法に関する授業をおこなう。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入−授業の目的と概要、評価方法などについて周知する
2	美術工芸品の保存修復　美術品の調査1ー自然科学的手法を用いた構造調査
3	美術工芸品の伝統的保存方法1ー正倉院宝物の保存
4	美術工芸品の保存修復　美術品の調査2ー自然科学的手法を用いた材質分析
5	美術工芸品の保存修復　美術品の調査3ー自然科学的手法を用いた資料の観察
6	美術工芸品の保存修復　有機質製品の調査･保存修復1
7	美術工芸品の保存修復　木材利用の歴史ー古代～近代の木材利用方法
8	美術工芸品の保存修復　有機質製品の調査･保存修復2
9	美術工芸品の保存修復　ガラス工芸品の保存修復技術
10	美術工芸品の保存修復　古代ガラスの復元技術
11	美術工芸品の保存修復　有機質製品の調査･保存修復3
12	海外の文化財保存科学事情1
13	美術工芸品の保存修復　漆芸品の保存修復
14	美術工芸品の保存修復　タイルの復元制作
15	前期授業のまとめ
16	前期授業の補足説明　提出レポート評価
17	美術工芸品の保存修復　遺構現地保存･剥ぎ取り技術
18	美術工芸品の保存修復　石造品の修復技術および作品の梱包方法
19	美術工芸品の伝統的保存方法2　装潢修理技術①
20	美術工芸品の伝統的保存方法3　装潢修理技術②
21	美術工芸品の伝統的保存方法4　仏像修理技術
22	美術工芸品の保存修復　金属工芸品の保存修復技術１
23	美術工芸品の保存修復　金属工芸品の保存修復技術２
24	美術工芸品の保存修復　土器の修復技術
25	美術工芸品の保存修復　古代編紐の制作技術
26	美術工芸品の保存修復　染織品の保存修復技術
27	美術工芸品を生物被害からまもる技術
28	美術工芸品を災害からまもる技術
29	海外の文化財保存科学事情2
30	後期授業のまとめ

科目名	工芸特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	角倉 起美				
クラス名					

授業目的と到達目標

工藝的アプローチによるプラグマティズムの実践を通して、独自の芸術制作行為を学術的なケーススタディにするためには、アクションリサーチの方法を活用することが有効的である。この過程で気づく力、認識力、理解力を養い、さらなる工藝の可能性を探るデザインシステムとプロセスを学ぶことが目的である。素材、環境、他者、自己との対話を通じた関係性のデザイン方法を実践し、リフレクションのための時間と状況、場（環境）をつくることが目標である。

授業概要

【対面授業】前期は、工藝的アプローチによる関係性のデザインの基礎理論を学び、プラグマティズムの実践とその学術的意義について探求する。またその過程で、ある特定の場所に存在する文化財建造物とともに保存・利活用される工藝意匠や事象について分析、考察する。後期は、近年のサイトスペシフィックに展開/拡張する工藝作品について、領域横断型の工藝概念と作品を探求する。この授業の一環として、アクションリサーチの手法を用いて、自らの芸術制作行為を学術的に分析し、実践と理論の統合を図る。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

授業においては、積極的に受講し、ヒト、モノ・コトとの対話を通じて学びを深めていく姿勢を求めます。また、授業内の学習だけではなく、図書館やデジタルライブラリ、博物館や美術館、ギャラリー、インターネットリソース、工藝作家や専門家との交流、ワークショップやセミナーなど、これらのリソースを活用し、領域横断型の学びと豊かな実践の幅を広げる努力を怠らないようにすること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内レポート	30
前期末レポート	20
後期末レポート	20
授業に取り組む姿勢	30

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	授業中適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
博士（芸術）の学位を持つ陶芸家の教員が、文化財建造物を保存・利活用する社会貢献プロジェクトの実践研究や、多数の陶芸作品を制作、発表する経験を活かして、工藝的アプローチによる関係性のデザイン方法論を学ぶ授業を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス：授業概要の説明をする。
2	教員自己紹介：陶芸作品制作研究・社会貢献プロジェクト研究
3	イントロダクション 工藝的アプローチによる関係性のデザイン方法論 ①：対話による関係性のデザイン方法論の基礎理論概要を説明する。
4	工藝的アプローチによる関係性のデザイン方法論 ②：記号論概説。意味づけられた作品との対話による関係性のデザインプロセスを実践し、制作理論を探求する。
5	工藝の歴史的概要①：古代～中世～ルネサンス期の工藝の歴史について振り返り概観する。
6	工藝の歴史的概要②：近代～現代の工藝の歴史について振り返り概観する。
7	ラチェット(累積)効果による工藝の進化①：工藝の制作探究プロセスを道具の発明から考察する。道具の累積的な進化は、工藝の持続可能な発展と革新を促進させたことに注目する。
8	工藝の進化②：工藝の進化を「手工藝的進化」から考察する。産業革命以前の人工物の生産は一般的に機械を用いない手工藝であった。「手工藝的進化」は手仕事のライフヒストリーの中で小さな変更が加えられ、先達の経験の積み重ねとして連続的に「進化」していることを探求する。
9	対話によるデザインプロセスの実践：多様に変容する工藝作品が示してきた歴史は、多くの人材がその一部分に関わりながら受け継ぎ、少しずつ手を加えて次世代に継承されている。その中で工藝家がどのように関わったのか、関わり得たのか、その貢献の仕方を考察する。
10	工藝的アプローチによる文化財建造物の保存と利活用：歴史的文化財建造物を中心とした環境、さらに内包する工藝意匠を考察する。建築は「衣・食・住」を展開する場であり、構成要素として特に工藝の技術が集積されていることに着目する。
11	国登録有形文化財「ヴォーリズ六甲山荘」の工藝意匠①：工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。
12	国登録有形文化財「ヴォーリズ六甲山荘」の工藝意匠②：工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。
13	京都市指定有形文化財「駒井家住宅」の工藝意匠：工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。
14	国登録有形文化財「睡鳩荘(旧朝吹山荘)」の工藝意匠：工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。
15	前期の振り返り、前期末レポートの課題説明。
16	前期末レポートの内容についてリフレクションを行う①
17	前期末レポートの内容についてリフレクションを行う②
18	提示する工藝作品についてオープンディスカッションする。
19	工藝品の保存・利活用：人工物が生活世界にどのような影響をもたらすかを常に帰結からその設計へフィードバックする回路を持つことが重要である。歴史的建造物の部材や古材を活用する取り組みから工藝の持続可能な循環型ものつくりに注目する。
20	工藝的アプローチによる他領域への視座 ：つくり手に立ったミクロ見地からだけではなく、環境や社会を含むマクロ側面からも思考し、案出、創出していくプロセスを探求する。

21	拡張する工藝領域：工藝の持つ可能性に着目し、哲学や知恵、概念、技術にこれからの時代を見据える上で大きな示唆があることを考察する。社会に工藝をいかに実装させるかを探求する。
22	工藝と美術の違い：目的や対象、機能、制作過程などでの意味づけられた記号現象の段階に捉え項目別に考察する。
23	工藝の経年変化：工藝は歴史と時間を重ねるごとに、制作された時点の作品から時間の経過、使用、設置された環境によって変化するものがある。工藝特有の長い時間をかけて維持管理し、経年変化そのものを楽しみ、色や機能・性能が変わることさえも愛おしく、愛着が湧くような工藝品が存在する。工藝の多様な側面、要素の一つとして考察する。
24	展開/拡張された場における工藝作品の位置づけ：芸術制作の研究は自己制作としての作品の説明ではなく「行為の中の省察」と制作をした後に作品と対峙し、自己との対話を通して制作の意味に気づくことを言語化することである。言い換えれば、意味を伝達するだけではなく、自己との対話を通してデザインを構築するダイヤグラムのレイヤーを蓄積することである。この行為がまた次なる制作の可能性を拓く有効的なツールとなることを検証する。
25	サイトスペシフィックな工藝作品：工藝作品を単体、事物としての作品だけではなく制作した作品がどのような場や位置に展開され、その場の要素の中でどのように組み合わされているのかが重要な意味を持つことについて考察する。
26	多領域で共有できる景観デザインについての概要：景観とは単に物理的なものの眺めだけでなく、景観が成立するためには「人が見る行為」が必要である。物理的な眺めと見る側の相互の関係で成り立っている。つまり、景観は知覚できる多種多様な要素間の集合であり、それを構成するのは観察者(五感を活用)である。景観デザインの要素を自らつくること、守ること、その関係性を育てていくことについても考察する。
27	ランドスケープデザインにおける「景観」と「風景」：ランドスケープデザインは他のデザイン分野とは異なり、人工的につくられた部分だけではなく、元からある自然なども全て含まれる。人為的にデザインされたランドスケープでも鑑賞する人々にとっては受容される環境全ての要素がランドスケープとして自覚される。工藝作品を展開する場としての要素を分析する手段としてランドスケープデザイン理論を探求する。
28	領域横断型の環境芸術作品　：近年、国際的にもアートを活用した地域再生や環境保全などのアートプロジェクトが多く展開されてきた。多くの国でパブリックアートや、野外彫刻展が各地で受け入れられ展開されている。これは、ランドスケープの中で、アートを媒介に人と人をつなぐ新たな関係性のデザインが構築されており、社会システムの創出が実証されているからである。工藝的観点から、作品事例を取り上げて考察する。
29	記号過程を制作プロセスに当てはめ、独自の芸術制作研究を論ずる手段として試みる：芸術作品を制作する過程では記号の内部構造を制作することが求められる。意味づけられた記号現象に加える独自のテクストを多層と多様な制作プロセスの段階ごとに捉えリフレクションする。
30	後期の振り返り、後期末レポートの課題説明。

科目名	美術鑑賞論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 後期	形態	講義		
教員名	泉谷　淑夫				
クラス名	【18以降生対象】				

授業目的と到達目標

美術作品を幅広く受け入れて、それぞれの良さを味わい、造形への理解を深めるとともに、美術への関心を高めることが授業目的である。その過程で、多くの作品に触れながら自己を発見し、造形思考を磨いて豊かな鑑賞力を身につけることが到達目標である。このため授業に積極的に参加して貴重な鑑賞機会としていく姿勢が大前提となるので、欠席は極力回避すること。

授業概要

西洋の美術、日本の美術、前衛美術、身近な美術を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショーで提示して「考えながら見る」習慣を徐々に身に着けさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。
なお、授業者は長年にわたり鑑賞教育に携わり、著書や多数の論文を執筆している。
一部、授業内容に変更が出る場合があります。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

事前に予備知識を入れるなどの必要はないが、とにかく授業に集中して臨み、気づいたことや考えたことなどをメモして、授業のまとめレポートの準備をすること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
2 回の「授業のまとめ」レポート	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書

教科書1	美との対話−鑑賞への誘い−		
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	日本美術 101　西洋美術 101		
出版社名	三元社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

全部の講義に出席していても「授業のまとめ」レポートの記述内容から、著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。またレポートに授業内容と関係のない内容をたくさん書いても評価されません。2回のレポートの合格ラインはいずれも 60%です。

教員実務経験

教員は長年にわたり画家としての立場から美術鑑賞教育の実践研究に取り組んでいて、著書、論文、講演などを通して、美術鑑賞教育の必要性や重要性を説いている。有効な鑑賞の手法として、スライドショーによる比較鑑賞と対話型鑑賞を組み合わせた形態を開発している。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス　美術鑑賞入門　比較鑑賞トレーニング
2	西洋美術入門①『レオナルドの《最後の晩餐》の謎』 レオナルド以前の「晩餐図」から以後の「晩餐図」の変遷を見た後、レオナルドの《最後の晩餐》にまつわるいくつかの謎にアプローチしていく。
3	西洋美術入門②『フェルメールと同時代の画家たち』 現代のフェルメール・ブームの問題点に触れた後、フェルメールが活躍した 17 世紀オランダ絵画の状況を再現して、フェルメールの独自性を明らかにしていく。
4	西洋美術入門③『ミレーの《落ち穂拾い》を読み解く。』ミレーの人物表現に焦点を当て、その特色を確認した上で代表作の《落ち穂拾い》を様々な類似作との比較鑑賞を通して、構図や主題の違いを浮き彫りにし、ミレーの《落ち穂拾い》の独自性を読み解いていく。
5	日本美術入門①『UKB52 って何？』 UKB52 を取り上げ、UKB の位置づけを確認した後、現代に通じるアイドルの売り出し戦略を考察するとともに、個々の UKB を鑑賞して、自分なりの「推し」を探す。
6	日本美術入門②『どちらがスゴイ　若冲と応挙』江戸時代中期を代表する若冲と応挙の徹底した比較鑑賞を通して、二人の対照的な造形の本質と魅力を引き出していく。若冲の『動植綵絵』や応挙の孔雀図などの代表作以外にも珍しい作品や近年発見された共作の屏風絵なども紹介する。
7	日本美術入門③『歌麿美人画人気の秘密』 歌麿の美人画がなぜ当時人気があったのかを、当時の出版事情の観点から多角的に探っていく。後半は歌麿美人画の代表作を取り上げ、大首絵の構図やポーズ、透かしの技法、母と子の情景などをじっくり味わっていく。
8	「授業のまとめ」レポート①　前半の授業の中から三つを選び、授業で学んだことや考えたこと、感想や意見などを授業の内容に沿って具体的に論述する。
9	前衛美術①『生き続ける前衛精神デュシャン』 今も前衛美術の神様として崇拝されるデュシャンを取り上げ、前半生をクール、後半生をホットと位置づけ、代表的な油彩作品やレディメード作品を比較鑑賞して、デュシャンの制作意図やメッセージを読み解いていく。
10	前衛美術入門②『イメージの魔術師マグリット』 シュルレアリスムの画家マグリットの造形の本質に言葉とイメージの関係から迫り、マグリットが創り出したイメージの連鎖性をイメージトリップとして楽しんだり、同一発想の絵を比較して、どちらがより優れているかを検証していくワークショップも行う。
11	前衛美術入門③『リクテンスタインの冷めた革命』 ポップ・アートの旗手リクテンスタインを取り上げ、美術史上のスキャンダルを紹介した後、リクテンスタインが素材にしたコミックスの原画と完成作の比較を通して、リクテンスタインがマンガから芸術を生み出したマジックを解明する。
12	身近な美術入門①『ミュシャが長く愛される理由』 アールヌーボーの旗手ミュシャを取り上げ、同時代のポスター作家たちとの比較を通してミュシャの造形の特色を明らかにし、ミュシャが長く愛される理由を探るとともに、その造形への意外な影響源を探っていく。
13	身近な美術入門②『ロックウェルの演出を読み解く』 アメリカを代表するイラストレーター、ノーマン・ロックウェルを取り上げ、ユーモア溢れる作風を紹介した後、代表作の比較鑑賞を通して、構図の妙や作品に込められた深いメッセージをじっくり読み解いていく。
14	身近な美術入門③『文字なし絵本に学ぶ』 絵本のメディア性が最も生かされている文字なし絵本の世界を、三つの代表的絵本を通して味わう。後半は日本とアメリカの代表的な文字なし絵本を比較鑑賞し、共通点や相違点の発見から日米の絵本表現の違いを解明していく。
15	「授業のまとめ」レポート②　後半の授業の中から三つを選び、授業で学んだことや考えたこと、感想や意見などを授業の内容に沿って具体的に論述する。

科目名	美術特論Ⅳ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	泉谷　淑夫				
クラス名	【18生対象】				

授業目的と到達目標

前期と後期で限定的なテーマを設定し、豊富な視覚飼料を駆使して絵画への理解と関心を深めていくとともに、貴重な作家研究の場にもしていくのが目的である。また、様々な作品や考え方との出会いを通して、受講生なりの絵画観や評価観を育てていくのが到達目標である。

授業概要

前期のテーマは『浮世絵 300 年の精華』、後期のテーマは『ロマン主義と象徴主義の絵画』で、それぞれ代表的な画家とその作品の紹介を通して、根底にある考え方や特徴的な表現を探っていく。作品鑑賞においては対話形式を取り入れ、受講生の積極的な意見発表を求めていく。前半と後半に各 3 回授業レポートが課される。なお、内容が一部変更されることもある。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

準備は特に必要ないが、授業中に気づいたことや自分なりに考えたことを記録しておき、レポート作成の前に読み返して、理解の定着をはかることが望ましい。、

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
課題レポートと 2 回の授業レポートおよび授業に取り組む姿勢を総合して評価する。	100

教科書

教科書1	特にありません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	授業の中で適宜紹介します。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験	
授業者は長年にわたり、自身の制作と絡めて浮世絵とロマン主義や象徴主義の絵画を研究している。	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス　浮世絵入門　浮世絵の概要として出版の仕組みやジャンル、代表的作家や彫りや摺りの技法、幅広い表現領域などを関連図版とともに紹介し、浮世絵への導入を図るとともに、明治期以降の展開にも目を向けていく。
2	浮世絵のルーツ　彦根屏風と風俗図　浮世絵のルーツとして江戸時代初期の様々な風俗図を取り上げる。中心は彦根屏風で、作品の造形的分析を行い、時代背景も探る。彦根屏風の比較として松浦屏風や寛文美人図、浮世絵初期美人画なども取り上げる。
3	美人画の系譜　鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、溪斎栄泉の４人の代表的美人絵師を取り上げ。美人画を比較鑑賞で深く味わうとともに、代表的な４人の作家について作品からそれぞれの魅力と個性を掘り下げていく。
4	謎の浮世絵師・写楽と長喜　東洲斎写楽の第一期と第二期の役者絵作品から写楽の個性を見極め、第三期作品からは贋作の可能性も検証し、写楽別人説についても山東京伝、喜多川歌麿、英松斉長喜を例に挙げ、独自に追求していく。中でも謎の多い浮世絵師である長喜については詳しく触れていく。
5	歌麿と北斎の絵本　美人画で有名な歌麿の狂歌絵本『画本虫撰』と『百千鳥』を取り上げ、細部鑑賞を駆使して、若き日の歌麿の卓越した観察力と描写力をじっくりと味わっていく。一方、名所絵で有名な北斎の絵本『富嶽百景』を取り上げ、『富嶽三十六景』と比較しながら、霊峰・不二への飽くなき執念と新趣向の数々を見て行く。
6	西洋を学んだ江戸の絵師たち　江戸時代中期に見られる洋風画の発生と展開に焦点を当て、鎖国体制の中で町絵師たちが西洋画を独自に学んでいた様子を紹介する。小田野直武、司馬江漢、亜欧堂田善の他、浮世絵師では鳥居清長、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳などを取り上げる。
7	もうひとつの北斎・肉筆画の世界　『富嶽三十六景』一般によく知られる版画ではなく、北斎が晩年に多く手掛けた肉筆画の鑑賞を通して、葛飾北斎の真の画力を探っていく。得意とした鳥や龍の肉筆画の他、美人画や風俗図などの珍しい作も紹介していく。
8	授業レポート①　前半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
9	日本人の心のふるさと歌川広重の風景世界を、版画の初摺り・後摺り・変わり版で比べたり、『東海道五拾三次』の人気の秘密を探ったり、雨・雪・月の詩情をじっくり味わったりする。また『東海道五拾三次』の元絵との比較やあまり知られていない『六十余州名所図会』の紹介、ライバル北斎との関係や晩年の『名所江戸百景』にも迫っていく。
10	浮世絵のあらゆるジャンルをこなした人気絵師歌川国芳を取り上げ、若き日の国芳の代名詞である武者絵に始まり、今日評価の高い洋風風景画の数々、国芳の真骨頂・大判三枚続きのワイド作品群、さらには国芳が憧れた先輩絵師との比較、そして得意の猫絵やだまし絵などをじっくりと読み解いていく。
11	浮世絵の影響を中心にジャポニスムの諸相を見ていく。ジャポニスムを「日本趣味の流行」「日本的大胆構図の借用」「日本的表現への全面的傾倒」の三段階に分け、それぞれの実例を浮世絵との比較で検証していく。合わせて「橋のジャポニスム」などの特定モチーフでの作例や、作家ごとのジャポニスムを紹介していく。
12	近代の美人画　松園、深水、清方　近代の美人画を比較鑑賞で楽しむ。取り上げるのは上村松園、伊東深水、鏑木清方の三人で、日本画画壇で活躍した松園、深水、清方の代表的画業を紹介し、日本画に引き継がれた浮世絵美人画の伝統と人物表現における変化を明らかにしていく。
13	大衆に愛された美人画　夢二と雪岱　大衆美術の世界で活躍し、多くの人から愛されたた竹久夢二と小村雪岱の個性あふれる作品を美人画を中心に見て行く。夢二の特異性を明らかにするために、松園や深水、清方の作品との比較や夢二が研究したと思われる西洋絵画との比較も試みる。
14	近代東京の叙情　清親と巴水の風景画　明治時代に「光線画」で一世を風靡した小林清親と大正から昭和にかけて活躍した最後の浮世絵師の一人で、海外でも人気の高い川瀬巴水の画業を紹

	介する。清親の代表的シリーズ『東京名所図』に見られる光線画や「夕暮れ巴水」とも呼ばれる巴水の黄昏時を描いた風景画を紹介し、彼らの作品に引き継がれた歌川広重の叙情性を探っていく。
15	授業レポート② 後半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
16	ガイダンス 想像力の覚醒と飛翔 西洋美術史の 19 世紀におけるロマン主義絵画の発生や象徴主義絵画の誕生の系譜をゴヤ、ルンゲ、ジョン・マーチン、シュワーベ、クプカなどの関連作家の作品で見ていき、全体の導入とする。
17	自然との寡黙な対話 フリードリヒとその周辺 ドイツ・ロマン派の旗手フリードリヒを取り上げ、フリードリヒが自然と人間の関係をどのようにとらえていたのかを、フリードリヒの主要モチーフである樫の木や山、後姿の人物、人物と月、人のいない光景などから探っていく。フリードリヒ周辺の画家についても紹介する。
18	近代文明に背を向けた画家 ベックリン 後期ロマン派の画家で、《死の島》の作者として知られるベックリンを取り上げ、主要モチーフである樹と雲、神話と寓意、闘いや戯れ、海辺の情景、廃墟、そして死の島などの切り口から、ベックリンの芸術を詳しく掘り下げていく。
19	耽美的な物語世界 モローとファンタン・ラトゥール 19 世紀後期フランスの象徴主義の画家モローを取り上げ、プロフィールへの執着という観点から、魅惑 t 的な造形を鑑賞していく。プロフィールへの執着以外では、神々の世界、オルフェイスの首、サロメのシリーズ、晩年の水彩画などに焦点を当てていく。また写実と象徴の狭間の世界を幽玄的に表現したファンタン・ラトゥールの貴重な肖像画、集団肖像画、物語画も紹介する。
20	モノクロームと色彩美 カリエールとルドン フランスの個性的な象徴主義者であるカリエールとルドンを取り上げて、19 世紀末から 20 世紀初頭の象徴主義絵画の一端を見ていく。カリエールは茶褐色のモノクローム表現による幽玄な人物画や母と子をモチーフとした風俗画を、ルドンは画業前半の石版画による白黒の幻想世界と後半の色鮮やかな幻想世界を対照して紹介していく。
21	不安な人間像 ムンクトアンソール ノルウェーの画家ムンクとベルギーの画家アンソールの、きわめて個性的かつ象徴主義と表現主義的の間に位置する表現を、それぞれの代表作を通して見ていく。ムンクは初期作品から《叫び》や《橋の上の少女》に至る過程を、アンソールは得意とした仮面の不条理劇に焦点を当てていく。
22	世紀末ベルギーの夢想 クノップフとロップス ベルギーの象徴主義者クノップフの謎に包まれた作品群に多角的にアプローチしていく。不思議な雰囲気をたたえた肖像画や夢の世界のような風景画を手始めに、難解な寓意画の数々、そして代表作の《メモリーズ》へと迫っていく。この貴族的なクノップフに対して性をあからさまに表現する手法で人間の本質を暴き出すスタイルを得意としたロップスの「悪徳の美」を対置して紹介する。
23	授業レポート① 前半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
24	高原の楽園と聖母子 アルプスの画家セガンティーニを取り上げ、ミレーに感化された初期作品から最晩年のアルプス三連画まで、セガンティーニの働く人物像や後姿の人物像、祈りのポーズと母子像、高原の楽園、牛のいる風景、アルプスの大自然と人、高原の幻想空間などの視点から、セガンティーニ絵画の神髄に迫っていく。
25	ドイツが生んだ若き才能 クリンガーとフォーゲラー 早熟の天才クリンガーを取り上げ、精緻な描写から生まれる幻想世界を見ていく。特にクリンガー芸術を特徴づける版画のシリーズに焦点を当て、有名な『手袋』のシリーズをはじめ、『間奏曲』『ある生涯』『ある愛』『ブラームス幻想』『死について』などを紹介し、最後に貴重な油彩画の代表作にも触れていく。同様に早熟の天才であったフォーゲラーの繊細で清新な感覚から生まれた「春」のイメージの傑作群も紹介していく。
26	生命の賛歌とパラレリスム スイスの世紀末画家ホドラーを取り上げ、演劇的ポーズをした象徴的な人物表現と、パラレリスムに基づく群像構成に焦点を当て、それらを造形的に読み解いていく。初期の生活の中の人物像と象徴性の強い単身の人物像を経て、パラレリズムの群像表現に到達する流れを見ていく。また象徴的な光に満ちた魅力的な風景画も紹介する。
27	古都ウィーンに咲いた二つの花 クリムトとシーレ 19 世紀末から 20 世紀の初頭のウィーンで活躍したクリムトとシーレの二人を取り上げ、師弟関係にあった二人のの相互影響関係も見ていく。クリムトでは装飾性豊かな神話画を中心に、個性的で華麗な肖像画にも触れていく。シーレでは自画像を核とする独特な人物表現を中心に、人間性をえぐるような肖像画の数々も紹介する。

28	ミステリアスな沈黙　ハマスホイ　近年評価が高まっているデンマークの画家ハマスホイを取り上げ、独特な静寂に満ちた世界を見ていく。「後姿の人物のいる室内風景」「人物のいない室内風景」「静けさが支配する都市風景」「語りかける木立」「抒情的な田園風景」などの様々な切り口でハマスホイ絵画世界にアプローチし、その魅力に迫っていく。
29	絵本　オールズバーグの謎めいた世界　アメリカの絵本作家オールズバーグの絵本世界を紹介する。日本デビュー作の『西風号の遭難』や見開き画面に迫力ある絵を配した『ゆめのおはなし』、白黒表現でアルファベット 26 文字にふりかかる災難をリアルに表した『THE Z WAS ZAPPED』などを読み解きながら、絵本における象徴表現の可能性について考えていく。
30	授業レポート②　後半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	井上 剛				
クラス名					

授業目的と到達目標

第三者とのイメージの相互理解が必要な場合、図面を介することは非常に有効な手段であり、生産、製作の上では必須となっている。この授業を通して基本的な製図法を理解し、図面の「読み」「書き」を実践する。
正投影法をはじめとする基本的な製図法を理解し、第三者に伝達する為に必要な作図力を身につけることを目的とする。

授業概要

【対面授業】製図に関する基本知識の学習をと基礎実習作業を通し、第一に「伝える」ための方法を習得し、その後、与えられた図面からそれを実製作することで双方の立場にたって製図に対する理解を深める。
教員は、建築やデザインに関する業務実績を活かしより具体的で実践的な指導をする。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

各種製図法（投影法）についての予習

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
実習課題	80
習熟と理解	10
その他の提出物	10

教科書

教科書1	「製図実習」セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学刊	著者名	南和伸
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

ガラス工芸家、ガラス造形作家として、プロダクトデザイナー、建築家、アーティストや企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作してきた経験を活かし、製図法とその取り扱い方について実践的な実習授業とする

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス／準備物の説明／概要「製図とは？」／課題説明
2	製図法の概要／製図に用いられる「線種」の理解
3	製図を用いた製作の実例レクチャー
4	製図の基礎1 フリーハンド製図の練習
5	製図の基礎2 第三角法の理解
6	投影法について 各投影法の特徴の理解、小プリントによる読図のトレーニング
7	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」1 各自持参したマグカップを採寸し、フリーハンドで下書きする
8	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」2 フリーハンドの下書きのチェック→本製図のための下書き
9	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」3 製図作業
10	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」4 製図作業
11	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」5 図面完成→合評
12	造形演習「美しいかたち」1 「美しいかたち」について講義
13	造形演習「美しいかたち」2 「美しいかたち」についてリサーチ
14	造形演習「美しいかたち」3 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み（エスキース）
15	造形演習「美しいかたち」4 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み（エスキース）
16	造形演習「美しいかたち」5 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
17	造形演習「美しいかたち」6 石膏モデルの制作
18	造形演習「美しいかたち」7 石膏モデルの完成→合評
19	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」1 課題説明／リサーチ
20	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」2 リサーチ／「企画立案」
21	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」3 プレゼンテーション資料の作成
22	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」4 ロールプレイング 「企画コンペ」
23	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」5

	量産を前提として「デザイン→製図」
24	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」6 製図作業
25	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」7 製図作業
26	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」8 製図作業
27	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」9 図面提出、モデリング（マケット）作成準備
28	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」10 製品モデル（マケット）製作作業
29	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」11 製品モデル（マケット）製作作業
30	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」12 最終提出／講評会／授業総括

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川　政弘				
クラス名	【19生対象】				

授業目的と到達目標

図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。
これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。

授業概要

前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化する事によって、三面図の基本を理解します。
後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究しておいて下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
制作した図面、レポート、提出物	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書

教科書1	作図法など必要な資料は配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	プロダクトデザインのための製図		
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
作図を伴った工芸作品の制作経験の豊富な教員が指導を行います。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)
2	「練習問題」三面図の理解
3	練習問題の回答 「線の練習 1」T 定規の使い方、実線、破線
4	「線の練習 2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線
7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
10	「木槌の作図」枠線、表題
11	「木槌の作図」外形線、面取りや R の指定、断面図
12	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
13	「青銅の蓋物の作図」鋳金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
14	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
15	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成次課題「中空構造の自由形態」課題説明
16	キャラクター人形の採寸→下書き
17	キャラクター人形の作図1
18	キャラクター人形の作図2
19	キャラクター人形の作図3
20	キャラクター人形レンダリング１
21	キャラクター人形レンダリング２ 「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
22	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
23	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
24	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
25	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図1
26	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図2
27	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図3→完成
28	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作1
29	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作2→完成
30	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					

授業目的と到達目標

アイディア相互理解、また製作を依頼（受注）する場合、その伝達には正確な図面が必須である。
基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。

授業概要

基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。
また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。
これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイディアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
課題提出	80
受講姿勢	20

教科書

教科書1	「製図実習」 セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南 和伸
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

{田中雅文 Official site,http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html}

特記事項

陶磁器制作を専門とする中で素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。

教員実務経験
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	課題説明。陶芸のおける製図の概要、準備物等の説明
2	製図の機能と役割（見やすい図面を作成する基本的な考え方） 製図用具の種類と使用法
3	図面の大きさと様式、線の種類、文字の書き方正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする
7	湯呑みの製図 4 製図作業
8	湯呑みの製図 5 製図作業
9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ＆ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ＆ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ＆ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ＆ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ＆ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ＆ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1 面型鋳込み カップの制作 1 デザインの考察
22	1 面型鋳込み カップの制作 2 図面作成
23	1 面型鋳込み カップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1 面型鋳込み カップの制作 4 石膏原型制作
25	1 面型鋳込み カップの制作 5 石膏原型制作
26	1 面型鋳込み カップの制作 6 使用型制作
27	1 面型鋳込み カップの制作 7 使用型制作
28	1 面型鋳込み カップの制作 8 泥漿制作
29	1 面型鋳込み カップの制作 9 鋳込み作業
30	1 面型鋳込み カップの制作 10 生地完成 総括

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		

教員名	髙橋　亜希、尾原　久永
クラス名	【19生対象】

授業目的と到達目標

（前期　尾原）建学の精神の総合のための分化と境界領域の開拓に基づき、新分野の開拓につとめるため、作品制作や展示等のプロモーション活動に必要な製図の基礎知識や、デジタルツールを応用出来るスキルの習得を目的とする。
受講により得た知識を各自の制作、研究へ反映させることを目標とする。
（後期　高橋）テキスタイル・染織コースでは、着物の裁ち方や洋服のパターンの知識も必要となる。後期は和裁の基本を習得することを目的とし、作品制作における構想やデザインをより具体的に描画できる能力を養う。

授業概要

【対面授業】（前期　尾原）デザイン系 PC ソフトの使い方と製図の基本を学び、毎回具体的な実習を行う。最終的に部屋空間をレイアウトする平面図作成や簡単なパース図作成までを行う。
（後期　高橋）着物の歴史について学び、自らが染色した浴衣地を用いて実際に浴衣を縫う。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

受講、実習内容がより理解・習得できるように自己啓発すること。また、遅刻・私語は慎むこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
提出作品	80
制作構想（平常授業態度、発表など含む）	20

教科書

教科書1	必要に応じてプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

授業内容は予定であり、特別講義や展覧会見学などで変更する場合もある。

教員実務経験

（前期　尾原）テキスタイルデザイナーでデザイン制作会社を経営する教員が、CG を活用した多数のデザイン制作の実務経験を活かし、工芸作品創作に役立つデジタル活用のノウハウを習得する授業を行う。
(後期　髙橋）織物指導（着物）をしてきた教員が実務経験を基に、作品創作に有益な製図知識の指導をする。大阪市立クラフトパーク 織物指導員合同会社 AkiOri テキスタイルデザイナー

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	前期立体の表現方法、製図と CAD に関する基本的な説明。 デザイン系ソフト：Illustrator の説明。基本操作の実技。

2	点・線・面の作図練習（基礎）
3	点・線・面の作図練習（応用）
4	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(1) T シャツの採寸～作図
5	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(2) T シャツの採寸～作図
6	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(3) T シャツの採寸～作図
7	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(1) 面処理の習得
8	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(2) 面処理の習得と立体表現
9	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(3) 平面図と立面図の制作
10	住空間の平面図作成（1） 平面図の制作
11	住空間の平面図作成（2） 平面図と立面図の制作
12	製図実習（1） 居住空間における実寸把握作図習得
13	製図実習（2） 居住空間における実寸把握作図習得
14	製図実習（3） 居住空間における実寸把握作図習得
15	合評・総評
16	後期着物についての歴史的考察 模造紙による 1/2 スケールの着物を試作
17	反物（浴衣地）の上に各部のサイズを記入する
18	反物（浴衣地）の上に各部のサイズを記入する
19	袖を縫うことから始める
20	身頃を縫う
21	身頃を縫う
22	脇を縫う
23	脇を縫う
24	衽を縫う
25	衽を縫う
26	衿をつける
27	袖をつける
28	細部の仕上げ着物のたたみ方を学ぶ 小下絵を描く（自分が着たい着物、染めたい着物、織りたい着物を想定して模様を描く）
29	日本と西洋の衣服の違いを知り構造を確かめる
30	各自の縫った浴衣を着用してプレゼンテーション　合評